

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					アセタミプリド		アセタミプリド			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					(財)日本食品分析センター (No. 126)	(株)日曹分析センター (No. 126)				
温州みかん (果肉) (施設) H5 年度 統一法(GC 法)	水溶剤(20%) 2000 倍 400L/10a 3 回 散布	三重農技セ (紀南)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	0.11	0.11	0.18	0.18		
			3	14	0.18	0.17	0.14	0.14		
			3	21	0.10	0.10	0.16	0.16		
		徳島植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.02	0.02	0.02	0.02		
			3	14	0.01	0.01	0.02	0.02		
			3	21	0.02	0.02	0.02	0.02		
			3	21	0.02	0.02	0.02	0.02		
温州みかん (果皮) (施設) H5 年度 統一法(GC 法)	水溶剤(20%) 2000 倍 400L/10a 3 回 散布	三重農技セ (紀南)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	2.75	2.66	2.60	2.55		
			3	14	2.79	2.76	1.97	1.92		
			3	21	1.82	1.82	1.48	1.43		
		徳島植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	1.13	1.10	0.87	0.84		
			3	14	0.72	0.70	0.29	0.28		
			3	21	1.25	1.22	0.76	0.72		
			3	21	1.25	1.22	0.76	0.72		
					(財)日本食品分析センター (No. 127)	(株)日曹分析センター (No. 127)				
温州みかん (果肉) (施設) H6 年度 統一法(GC 法)	くん煙剤(15%) 50g/400 m ³ 3 回 くん煙	静岡柑試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	3	0.04	0.04	0.08	0.08		
			3	7	0.05	0.05	0.07	0.07		
			3	14	0.04	0.04	0.07	0.07		
		愛知農総試 (蒲郡)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	3	0.04	0.04	0.05	0.05		
			3	7	0.03	0.03	0.05	0.04		
			3	14	0.04	0.04	0.05	0.04		
			3	14	0.04	0.04	0.05	0.04		
		温州みかん (果皮) (施設) H6 年度 統一法(GC 法)	くん煙剤(15%) 50g/400 m ³ 3 回 くん煙	静岡柑試	0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
					3	3	1.60	1.54	0.96	0.96
					3	7	1.10	1.10	0.84	0.84
				愛知農総試 (蒲郡)	3	14	0.80	0.80	0.64	0.63
					0	—	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
					3	3	0.75	0.74	0.75	0.72
3	7	0.67		0.66	0.67	0.64				
3	14	0.54		0.52	0.61	0.60				

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 128)	(株)日曹分析センター (No. 128)		
温州みかん (果肉) (施設) H8 年度 GC 法	水溶剤(20%) 200 倍 30、16L/10a 3 回 樹幹散布	愛知農総試 (蒲郡)	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	7	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
		佐賀果試	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	7	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
温州みかん (果皮) (施設) H8 年度 GC 法	水溶剤(20%) 200 倍 30、16L/10a 3 回 樹幹散布	愛知農総試 (蒲郡)	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	7	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
		佐賀果試	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	7	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 129)	(株)日曹分析センター (No. 129)		
なつみかん (果実) (露地) H5 年度 統一法(GC 法)、 但し私的分析機 関の各下段は GC 法(親化合物のみ 分析)	水溶剤(20%) 2000 倍 400L/10a 3 回 散布	山口萩柑試	0	—	0.04	0.03	<0.01	<0.01
			3	14	0.39	0.38	0.54	0.54
			3	21	0.37	0.36	0.43	0.42
			3	28	0.30	0.29	0.40	0.40
			3	43	0.31	0.30	0.26	0.26
			0	—			<0.005	<0.005
		3	14			0.612	0.570	
		3	21			0.534	0.524	
		3	28			0.345	0.338	
		3	43			0.308	0.296	
		長崎果試	0	—	0.03	0.03	<0.01	<0.01
			3	14	0.23	0.22	0.94	0.90
			3	21	0.40	0.38	0.50	0.49
			3	28	0.24	0.24	0.24	0.24
			3	44	0.61	0.60	0.56	0.54
			0	—			<0.005	<0.005
		3	14			1.15	1.12	
		3	21			0.560	0.528	
3	28			0.270	0.250			
3	44			0.669	0.616			
					(財)日本食品分析センター (No. 130)	(株)日曹分析センター (No. 130)		
なつみかん (果実) (露地) H7 年度 GC 法	水溶剤(20%) 200 倍 30L/10a 3 回 樹幹散布	神奈川 農総研 (根府川)	0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	7	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	14	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	21	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
		徳島植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	7	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	14	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	21	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)							
					公的分析機関		私的分析機関					
					アセタミプリド		アセタミプリド					
					最高値	平均値	最高値	平均値				
					—		(株)日曹分析センター (No. 232)					
なつみかん (果実全体) (露地) H23年度 LC/MS/MS法 【GLP】	水溶剤(20%) 2000倍 3回散布 500-657L/10a	日植防 千葉	0	-	/	/	/	/	/			
			3	14						<0.01	<0.01	
			3	21						0.54	0.52	
			3	28						0.64	0.64	
		3	42	0.67	0.62							
		3	42	0.83	0.73							
		和歌山 植防	0	-	/	/	/	/	/	/		
			3	14							<0.01	<0.01
			3	21							0.49	0.48
			3	28							0.50	0.50
		3	42	0.54	0.53							
		3	42	0.59	0.57							
大分植防	0	-	/	/	/	/	/	/				
	3	14							<0.01	<0.01		
	3	21							0.42	0.42		
	3	28							0.17	0.16		
3	42	0.11	0.10									
3	42	0.21	0.20									
					—		(株)日曹分析センター (No. 131)					
かぼす (果実) (露地) H5年度 統一法(GC法)	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 3回 散布	広島農技 センター(果研)	0	—	/	/	/	/	/			
			3	14						<0.01	<0.01	
			3	21						0.88	0.88	
			3	28						0.62	0.58	
		3	43	0.58	0.57							
		3	43	0.74	0.74							
		大分植防	0	—	/	/	/	/	/	/		
			3	14							<0.01	<0.01
3	21		0.54	0.53								
3	28		0.43	0.42								
3	45	0.30	0.30									
3	45	0.48	0.48									
					—		(株)日曹分析センター (No. 132)					
小粒柑橘 (かぼす:大分 すだち:徳島) (果実) (露地) H8年度 GC法	水溶剤(20%) 200倍 30L/10a 3回 樹幹散布	大分植防	0	—	/	/	/	/	/			
			3	9						<0.05	<0.05	
			3	16						<0.05	<0.05	
			3	23						<0.05	<0.05	
		3	23	<0.05	<0.05							
		徳島植防	0	—	/	/	/	/	/	/		
			3	7							<0.05	<0.05
			3	14							<0.05	<0.05
3	21		<0.05	<0.05								

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 133)	(株)日曹分析センター (No. 133)		
りんご (果実) (露地、無袋) H5 年度 統一法(GC 法)、 但し私的分析機 関の各下段は GC 法(親化合物のみ 分析)	水溶剤(20%) 2000 倍 400L/10a 2 回 散布	岩手園試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.19	0.19	0.16	0.16
			2	21	0.14	0.14	0.16	0.16
			2	28	0.15	0.15	0.12	0.12
			0	—			<0.005	<0.005
			2	14			0.173	0.166
			2	21			0.183	0.182
			2	28			0.171	0.170
		長野植防 (須坂)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.41	0.41	0.45	0.44
			2	20	0.37	0.36	0.31	0.31
			2	28	0.32	0.32	0.40	0.40
			0	—			<0.005	<0.005
			2	14			0.571	0.566
			2	20			0.479	0.478
			2	28			0.437	0.436
					(財)日本食品分析センター (No. 134)	(株)日曹分析センター (No. 134)		
りんご (果実) (露地、無袋) H15 年度 HPLC 法	水溶剤(20%) 2000 倍 500L/10a 2 回 散布	福島植防	0	—	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
			2	3	0.4	0.4	0.4	0.4
			2	7	0.3	0.3	0.5	0.5
			2	14	0.4	0.4	0.4	0.4
		石川植防	0	—	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
			2	3	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
			2	7	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
			2	14	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
					(財)日本食品分析センター (No. 135)	(株)日曹分析センター (No. 135)		
りんご (果実) (露地、無袋) H17 年度 HPLC 法	水溶剤(20%) 2000 倍 500L/10a 600L/10a 2 回 散布	石川植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	0.43	0.41	0.34	0.32
			2	3	0.25	0.24	0.26	0.25
			2	7	0.27	0.26	0.20	0.20
		長野植防 (須坂)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	0.50	0.50	0.46	0.46
			2	3	0.50	0.50	0.43	0.42
			2	7	0.32	0.32	0.27	0.27

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 136)	(株)日曹分析センター (No. 136)		
りんご (果実) (露地、無袋) H19年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 500L/10a 3回 散布	長野植防 (須坂)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.39	0.38	0.31	0.31
			3	7	0.39	0.39	0.33	0.32
		石川植防	3	21	0.25	0.25	0.29	0.28
			0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.81	0.80	0.59	0.56
					(財)日本食品分析センター (No. 137)	(株)日曹分析センター (No. 137)		
なし (果実) (露地、無袋) H5年度 統一法(GC法)	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 2回 散布	福島植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.34	0.34	0.31	0.31
			2	21	0.27	0.27	0.28	0.28
		長野植防 (南信)	2	28	0.18	0.18	0.29	0.28
			0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.11	0.11	0.13	0.12
					(財)日本食品分析センター (No. 138)	(株)日曹分析センター (No. 138)		
なし (果実) (露地、無袋) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 350L/10a 700L/10a 2回 散布	石川植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	3	0.18	0.18	0.16	0.16
			2	7	0.15	0.15	0.12	0.12
		徳島植防	2	14	0.12	0.12	0.09	0.09
			0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	3	0.26	0.25	0.28	0.28
					(財)日本食品分析センター (No. 139)	(株)日曹分析センター (No. 139)		
なし (果実) (露地、無袋) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 600L/10a 2回 散布	長野植防 (須坂)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	0.29	0.28	0.22	0.22
			2	3	0.29	0.28	0.19	0.18
		福井植防	2	7	0.16	0.15	0.17	0.17
			0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			2	1	0.75	0.74	0.46	0.46
					(財)日本食品分析センター (No. 140)	(株)日曹分析センター (No. 140)		
なし (果実) (露地、無袋) H19年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 500L/10a 3回 散布	秋田農水技セン ター(天王)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.31	0.30	0.32	0.30
			3	7	0.25	0.24	0.28	0.26
		徳島植防	3	21	0.06	0.06	0.05	0.05
			0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.55	0.54	0.71	0.67
					(財)日本食品分析センター (No. 141)	(株)日曹分析センター (No. 141)		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 141)		(株)日曹分析センター (No. 141)	
びわ (果肉) (施設) H7,8 年度 GC法,私的分析は 統一法(GC法)	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 3回 散布	長崎果試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		鹿児島果試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					(財)残留農薬研究所		—	
びわ (果肉) (露地、無袋) H24 年度 LC/MS/MS	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 3回散布	千葉 農総研センター	0	—	<0.01	<0.01	/	/
			3	1	0.43	0.42		
			3	3	0.55	0.54		
		日植防 高知	0	—	<0.01	<0.01	/	/
			3	1	0.23	0.22		
			3	3	0.23	0.22		
千葉 農総研センター		0	—	<0.01	<0.01	/	/	
		3	1	6.40	6.12			
		3	3	5.36	5.30			
日植防 高知		0	—	<0.01	<0.01	/	/	
		3	1	2.25	2.25			
		3	3	1.82	1.82			
千葉 農総研センター	0	—	<0.01	<0.01	/	/		
	3	1	6.40	6.12				
	3	3	5.36	5.30				
日植防 高知	0	—	<0.01	<0.01	/	/		
	3	1	2.25	2.25				
	3	3	1.82	1.82				
千葉 農総研センター	0	—	<0.01	<0.01	/	/		
	3	1	1.09	1.02				
	3	3	0.98	0.98				
日植防 高知	0	—	<0.01	<0.01	/	/		
	3	1	0.61	0.49				
	3	3	0.49	0.36				
					(財)残留農薬研究所		—	
びわ (果肉) (露地、無袋) H25 年度 LC/MS/MS	水溶剤(20%) 2000倍 930L/10a 3回散布	長崎農林技術 開発センター	0	—	<0.01	<0.01	/	/
			3	1	0.37	0.36		
			3	3	0.52	0.51		
			3	8	0.42	0.40		
びわ (果皮) (露地、無袋) H25 年度 LC/MS/MS		長崎農林技術 開発センター	0	—	<0.01	<0.01	/	/
			3	1	4.43	4.34		
			3	3	4.51	4.43		
			3	8	2.33	2.24		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					アセタミプリド		アセタミプリド			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					(財)残留農薬研究所		-			
びわ (全果実) (露地、無袋) H25年度 LC/MS/MS	水溶剤(20%) 2000倍 930L/10a 3回散布	長崎農林技術 開発センター	0	—	/	<0.01	/	/	/	
			3	1						1.02
			3	3						1.14
			3	8						0.70
					(財)日本食品分析センター (No. 142)	(株)日曹分析センター (No. 142)				
もも (果肉) (露地) H5年度 統一法(GC法)	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 3回 散布	山梨果試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	0.42	0.42	0.13	0.13		
			3	14	0.16	0.16	0.06	0.06		
			3	21	0.23	0.22	0.18	0.18		
		福岡農総試 (豊前)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	0.24	0.23	0.13	0.12		
			3	14	0.24	0.23	0.11	0.11		
			3	21	0.14	0.14	0.11	0.11		
もも (果皮) (露地) H5年度 統一法(GC法)	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 3回 散布	山梨果試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	1.06	1.04	0.96	0.91		
			3	14	0.66	0.65	0.25	0.24		
			3	21	0.65	0.64	0.52	0.51		
		福岡農総試 (豊前)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	1.09	1.04	0.71	0.68		
			3	14	0.55	0.52	0.36	0.36		
			3	21	0.51	0.50	0.19	0.19		
					(財)日本食品分析センター (No. 143)	(株)日曹分析センター (No. 143)				
もも (露地) (果肉) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 3回散布 400、500L/10a	福島植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	1	0.67	0.66	0.34	0.34		
			3	3	0.69	0.69	0.65	0.64		
			3	7	0.68	0.66	0.55	0.54		
		長野植防 (須坂)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	1	0.21	0.20	0.21	0.21		
			3	3	0.36	0.36	0.33	0.32		
			3	7	0.26	0.26	0.23	0.22		
		もも (露地) (果皮) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 3回散布 400、500L/10a	福島植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					3	1	3.77	3.76	2.42	2.42
					3	3	4.00	3.98	3.36	3.36
					3	7	2.48	2.38	2.22	2.22
長野植防 (須坂)	0			—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	3			1	2.50	2.46	1.99	1.98		
	3			3	1.56	1.50	1.23	1.22		
	3			7	1.13	1.12	0.88	0.87		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 144)	(株)日曹分析センター (No. 144)		
ネクタリン (果実) (露地) H15年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 山梨:600L/10a 長野:700L/10a 3回 散布	山梨果試	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	3	0.28	0.28	0.27	0.26
			3	7	0.23	0.22	0.16	0.15
			3	14	0.22	0.22	0.19	0.18
		長野果試	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	3	0.38	0.37	0.43	0.42
			3	7	0.29	0.29	0.32	0.31
			3	14	0.20	0.20	0.18	0.16
					(財)日本食品分析センター (No. 145)	(株)日曹分析センター (No. 145)		
すもも (果実) (露地) H7年度 統一法(GC法)、 但し公的分析は GC法	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 3回 散布	長野植防 (須坂)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.13	0.12	0.10	0.09
			3	14	0.07	0.06	0.09	0.08
			3	21	0.10	0.09	0.13	0.12
		鹿児島果試	0	—	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			3	7	1.26	1.23	1.14	1.12
			3	14	0.75	0.75	0.94	0.92
			3	21	0.44	0.42	0.67	0.67
					—	(株)日曹分析センター (No. 146)		
すもも (果実) (露地) H20年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 3回 散布 500L/10a(福島) 400L/10a(山梨)	福島植防	0	-			<0.05	<0.05
			3	1			<0.05	<0.05
			3	7			<0.05	<0.05
			3	21			<0.05	<0.05
		日植防研 (山梨)	0	-			<0.05	<0.05
			3	1			<0.05	<0.05
			3	7			<0.05	<0.05
			3	21			<0.05	<0.05

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					アセタミプリド		アセタミプリド			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
							(株)日曹分析センター (No. 199)			
すもも (果実) (露地) H22年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 350L/10a 3回散布、	日植防研 山梨	0	—	/	/	<0.05	<0.05		
			3	1			<0.05	<0.05		
			3	3			<0.05	<0.05		
			3	7			<0.05	<0.05		
			3	21			<0.05	<0.05		
		長野植防 須坂	0	—	<0.05	<0.05				
			3	1	0.38	0.36				
			3	3	0.14	0.12				
			3	7	0.24	0.22				
			3	21	0.27	0.25				
					(財)日本食品分析センター (No. 147)	(株)日曹分析センター (No. 147)				
うめ (果実) (露地) H6年度 統一法(GC法)	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 2回散布	福井園試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			2	7	1.10	1.10	1.11	1.06		
			2	14	0.63	0.62	0.63	0.61		
			2	21	0.57	0.56	0.73	0.71		
		徳島植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			2	7	0.54	0.53	0.39	0.38		
			2	14	0.49	0.48	0.30	0.27		
			2	21	0.65	0.62	0.37	0.34		
							(財)日本食品分析センター (No. 148)	(株)日曹分析センター (No. 148)		
			うめ (果実) (露地) H19年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 3回散布	青森農林 総研センター りんご試 (県南果樹セ)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05
3	1	0.96				0.96	0.76	0.73		
3	7	0.56				0.55	0.41	0.38		
3	21	0.25				0.24	0.20	0.18		
和歌山植防 (有田川)	0	—			<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	3	1			0.69	0.68	0.49	0.45		
	3	7			0.41	0.41	0.22	0.22		
	3	21			0.25	0.24	0.15	0.14		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 149)*	(株)日曹分析センター (No. 149)*		
おうとう (果実) (施設) H15年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 500L/10a(福島) 700L/10a(長野) 1回 散布	福島植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			1	1	1.85	1.84	1.65	1.62
			1	7	1.81	1.80	1.42	1.40
		長野植防 (須坂)	1	14	1.21	1.20	0.63	0.61
			0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			1	1	3.63	3.62	2.97	2.90
					—	(株)日曹分析センター (No. 150)		
おうとう (果実) (施設) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 500L/10a 700L/10a 1回 散布	山形農研センタ ー農業生産技 術試験場	0	—			<0.05	<0.05
			1	3			0.92	0.92
			1	7			0.71	0.71
			1	14			0.39	0.39
		長野植防 (須坂)	0	—			<0.05	<0.05
			1	3			0.69	0.68
			1	7			0.67	0.66
			1	14			0.28	0.28

*基準値設定に係る試験成績である。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					—	(株)日曹分析センター (No. 194)*		
おうとう (果実) (施設) H22年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 1回散布 400-500L/10a	青森植防	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			1	1			0.38	0.36
			1	3			0.32	0.32
			1	7			0.27	0.27
			1	14			0.12	0.12
		岩手植防	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			1	1			1.45	1.42
			1	3			1.49	1.46
			1	7			1.00	1.00
			1	14			0.66	0.62
		山形最上 総合支庁	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			1	1			1.56	1.56
			1	3			1.50	1.50
			1	7			0.96	0.95
			1	14			0.59	0.59
		山形農総研 センター	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			1	1			0.78	0.78
			1	3			0.64	0.64
			1	7			0.52	0.51
			1	14			0.44	0.44
福島植防 伊達市	0	—	/	/	<0.05	<0.05		
	1	1			0.83	0.82		
	1	3			0.50	0.50		
	1	7			0.42	0.42		
	1	14			0.72	0.72		

* 基準値設定に係る試験成績である。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
							(株)日曹分析センター (No. 194)	
おうとう (果実) (施設) H22年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 1回散布 400-500L/10a	福島植防 福島市	0	-			<0.05	<0.05
			1	1			0.78	0.76
			1	3			0.63	0.62
			1	7			0.32	0.32
			1	14			0.20	0.20
		長野植防 須坂 (小布施町)	0	-			<0.05	<0.05
			1	1			1.91	1.90
			1	3			1.07	1.04
			1	7			0.17	0.16
		長野植防 須坂 (須坂市)	0	-			<0.05	<0.05
			1	1			2.98	2.92
			1	3			1.36	1.28
1	7				1.02	1.02		
						(財)日本食品分析センター (No. 151)	(株)日曹分析センター (No. 151)	
いちご (果実) (施設) H4年度 統一法(GC法)、 但し私的分析機 関の各下段はGC 法(親化合物のみ 分析)	水溶剤(20%) 4000倍 150L/10a 2回 散布	栃木植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.16	0.16	0.15	0.15
			2	3	0.18	0.18	0.11	0.10
			2	7	0.12	0.12	0.11	0.10
		日植防研 (宮崎)	0	-			<0.005	<0.005
			2	1			0.192	0.190
			2	3			0.131	0.128
			2	7			0.125	0.121
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.42	0.41	0.44	0.44
			2	3	0.25	0.24	0.41	0.40
			2	7	0.20	0.20	0.32	0.32
			0	-			<0.005	<0.005
			2	1			0.456	0.453
2	3			0.450	0.446			
2	7			0.310	0.296			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 152)	(株)日曹分析センター (No. 152)		
いちご (果実) (施設) H4 年度 統一法(GC 法)	くん煙剤(15%) 50g/360~400 m ² 2回 くん煙	栃木植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.28	0.28	0.44	0.41
			2	3	0.38	0.38	0.35	0.35
			2	7	0.32	0.30	0.35	0.32
		岐阜植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.30	0.29	0.42	0.41
			2	3	0.26	0.26	0.31	0.28
			2	7	0.21	0.20	0.24	0.23
					(財)日本食品分析センター (No. 153)	(株)日曹分析センター (No. 153)		
いちご (果実) (施設) H7 年度 GC 法	粒剤(2%) 1g/株 1回 植穴混和处理 水溶剤(20%) 2000、4000 倍 200L/10a 2回散布 合計 3回	千葉農試	0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	1	0.73	0.72	0.89	0.86
			3	3	0.66	0.65	0.65	0.65
			3	7	0.44	0.42	0.64	0.62
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			3	1	0.46	0.44	0.71	0.70
			3	3	0.40	0.39	0.48	0.48
			3	7	0.29	0.28	0.34	0.34
					(財)日本食品分析センター (No. 154)	(株)日曹分析センター (No. 154)		
いちご (果実) (施設) H9 年度 GC 法	粒剤(2%) 1g/株 1回 植穴混和处理 水溶剤(20%) 2000 倍 200L/10a 2回 散布 合計 3回	岐阜植防	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			3	1	0.77	0.74	0.79	0.78
			3	3	0.48	0.46	0.52	0.50
			3	7	0.33	0.32	0.35	0.34
					(財)日本食品分析センター (No. 155)	(株)日曹分析センター (No. 155)		
いちご (果実) (施設) H10 年度 HPLC 法・GC 法	粒剤(2%) 1g/株 株元散布(1回) 水溶剤(20%) 2000 倍 150、200L/10a 2回 散布 合計 3回	長野植防 (南信)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.35	0.35	0.48	0.46
			3	3	0.21	0.21	0.22	0.22
			3	7	0.23	0.22	0.20	0.20
		岐阜植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.94	0.93	1.39	1.38
			3	3	0.91	0.88	0.89	0.88
			3	7	0.70	0.68	0.72	0.72

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					熊本農業研究センター (No. 156)		—	
ブルーベリー (果実) (露地) H16、17年度 HPLC法・GC法	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 1回 散布	熊本 農研センター (阿蘇)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			1	1	<0.5	<0.5		
			1	7	<0.5	<0.5		
			1	14	<0.5	<0.5		
			1	21	<0.5	<0.5		
		1	28	<0.5	<0.5			
		熊本 農研センター (上益城)	0	—	<0.5	<0.5		
			1	1	1.0	1.0		
			1	7	0.7	0.6		
			1	14	<0.5	<0.5		
					(財)日本食品分析センター (No. 157)	(株)日曹分析センター (No. 157)		
ぶどう (果実:テラウエア) (施設) H5年度 統一法(GC法)、 但し私的分析機 関の各下段はGC 法(親化合物のみ 分析)	水溶剤(20%) 2000倍 250L/10a 2回 散布	秋田果試 (天王)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	2.90	2.88	2.87	2.86
			2	21	2.75	2.62	2.74	2.72
			2	28	2.64	2.53	2.72	2.64
			2	45	1.97	1.97	1.63	1.50
			0	—	/	/	<0.005	<0.005
		2	14	/	/	2.91	2.87	
		2	21	/	/	2.65	2.62	
		2	28	/	/	2.84	2.77	
		2	45	/	/	1.04	1.02	
		石川植防	0	—	0.02	0.02	<0.01	<0.01
			2	14	2.56	2.51	1.51	1.44
			2	21	1.97	1.92	1.28	1.24
			2	28	1.77	1.70	1.42	1.32
			2	45	0.72	0.72	0.43	0.42
			0	—	/	/	<0.005	<0.005
			2	14	/	/	1.62	1.62
			2	21	/	/	1.10	1.08
2	28	/	/	0.797	0.756			
2	45	/	/	0.140	0.136			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)						
					公的分析機関		私的分析機関				
					アセタミプリド		アセタミプリド				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
							(株)日曹分析センター (No. 158)				
ぶどう (果実:テラウエア) (施設) H5 年度 統一法(GC 法)	水溶剤(20%) 2000 倍 200、250L/10a 2,3 回 散布	三重農技セ	0	—	/	/	/	/	/		
			2	14						<0.01	<0.01
			2	21						1.49	1.47
			2	28						1.39	1.34
			2	45						1.45	1.41
		0	—	<0.01						<0.01	
		奈良農試	3	11						2.40	2.36
			3	20						1.68	1.66
			3	27						1.38	1.35
			2	45						1.33	1.24
					(財)日本食品分析センター (No. 159)	(株)日曹分析センター (No. 159)					
ぶどう (果実:巨峰) (施設) H6 年度 統一法(GC 法)	水溶剤(20%) 2000 倍 250L/10a 2 回散布	長野農総試	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	14	0.18	0.17	0.24	0.24			
			2	21	0.18	0.18	0.16	0.16			
			2	28	0.15	0.14	0.17	0.16			
			2	45	0.11	0.11	0.21	0.20			
						(財)日本食品分析センター (No. 160)	(株)日曹分析センター (No. 160)				
ぶどう (果実 山梨:テラウエア 長野:巨峰) (施設) H9 年度 GC 法	粒剤(2%) 6 kg/10a 2 回 樹幹下散布	山梨果試	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
			2	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
			2	30	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
			2	45	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
		長野果試	0	—	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
			2	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
			2	30	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
			2	45	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05			
						(財)日本食品分析センター (No. 161)	(株)日曹分析センター (No. 161)				
ぶどう (果実 岩手:紅伊豆 石川:テラウエア) (施設、無袋) H15 年度 HPLC 法	水溶剤(20%) 2000 倍 300L/10a 3 回 散布	岩手植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			3	14	0.98	0.98	0.78	0.78			
			3	21	0.80	0.80	0.65	0.64			
		3	28	0.53	0.52	0.49	0.46				
		石川農総研セン ター (砂丘地農試)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			3	14	1.15	1.14	1.02	1.00			
			3	21	0.45	0.45	0.79	0.78			
			3	28	0.57	0.57	0.41	0.40			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 162)	(株)日曹分析センター (No. 162)		
ぶどう (果実 山梨:テラウエア 長野:巨峰 石川:巨峰) (施設) H18,19年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 300,500L/10a 3回 散布	日植防研 (山梨)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	0.80	0.76	0.64	0.62
			3	21	0.53	0.52	0.65	0.62
			3	28	0.33	0.32	0.41	0.40
		長野植防 (須坂)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	0.32	0.32	0.39	0.38
			3	21	0.31	0.30	0.29	0.28
			3	28	0.38	0.38	0.25	0.24
		石川植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	0.77	0.76	0.51	0.50
			3	21	0.30	0.29	0.99	0.94
			3	28	0.58	0.58	0.59	0.59
					(財)日本食品分析センター (No. 163)	(株)日曹分析センター (No. 163)		
ぶどう (果実 岩手:紅伊豆、 秋田:テラウエア) (施設、無袋) H18年度 HPLC法	粒剤(2%) 6kg/10a 3回 主幹周辺散布	岩手植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		秋田農水技セン ター(天王)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					-	(株)日曹分析センター (No. 207)		
ぶどう (果実 岩手:紅伊豆 島根:テラウエア) (施設) H22年度 HPLC法 【GLP】	くん煙剤(15%) 50g/400m ³ 3回 くん煙	岩手植防	0	-			<0.05	<0.05
			3	1			0.26	0.26
			3	3			0.28	0.28
			3	7			0.27	0.27
			3	14			0.26	0.26
			3	28			0.28	0.28
		島根農技 センター	0	-			<0.05	<0.05
			3	1			0.13	0.12
			3	3			0.12	0.12
			3	7			0.15	0.14
			3	14			0.08	0.08
			3	28			0.05	0.05

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 164)	(株)日曹分析センター (No. 164)		
かき (果実) (露地) H6 年度 統一法(GC 法)	水溶剤(20%) 2000 倍 400、420L/10a 3 回 散布	新潟佐渡 農技セ	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.41	0.40	0.26	0.26
			3	14	0.28	0.28	0.40	0.38
		和歌山果試 (紀北)	3	22	0.34	0.32	0.19	0.19
			0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.18	0.17	0.20	0.20
			3	14	0.14	0.14	0.21	0.20
			3	21	0.13	0.12	0.12	0.12
					—	(株)日曹分析センター (No. 195)		
かき (果実) (露地) H21 年度 HPLC 法 <GLP>	水溶剤(20%) 2000 倍 3 回散布 471L/10a(山梨) 440L/10a(奈良)	日植防研 山梨	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			3	1			0.22	0.22
			3	3			0.19	0.18
			3	7			0.18	0.18
			3	14			0.07	0.06
			3	28			<0.05	<0.05
		奈良植防	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			3	1			0.24	0.24
			3	3			0.19	0.18
			3	7			0.14	0.14
			3	14			0.39	0.37
			3	28			0.07	0.06
					(財)日本食品分析センター (No. 165)	(株)日曹分析センター (No. 165)		
キウイフルーツ (果肉) (露地) H16 年度 HPLC 法	水溶剤(20%) 2000 倍 260、500L/10a 3 回 散布	和歌山植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		大分県肥料 植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
							(株)日曹分析センター (No. 166)	
マンゴー (果実) (施設) H10年度 GC法	水溶剤(20%) 2000倍 3回散布 700L/10a	宮崎総農試	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			3	3			0.79	0.78
			3	7			0.58	0.58
			3	14			0.53	0.51
							宮崎農業総合試験場 (No. 166)	
マンゴー (果実) (施設) H16年度 LC/MS/MS法	水溶剤(20%) 2000倍 3回散布 300L/10a	宮崎総農試 (西諸県郡)	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			3	21			0.68	0.65
			3	28			0.66	0.63
			3	35			0.44	0.44
							(財)沖縄環境科学センター (No. 167)	
パッションフルーツ (果実) (施設) H16,17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 312.5,267L/10a 2回 散布	沖縄病虫害防 除所(名護)	0	—	/	/	<0.04	<0.04
			2	7			0.35	0.34
			2	14			0.48	0.48
			2	21			0.13	0.13
		2	28	0.04			0.04	
		沖縄病虫害防 除所(糸満)	0	—			<0.04	<0.04
			2	7			0.56	0.53
			2	14			0.51	0.50
2	21		0.55	0.54				
2	28	0.30	0.30					
							(株)日曹分析センター (No. 168)	
あけび (果実) (露地) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 500L/10a 2回 散布	山形村山総合 支庁産業経済 部村山農業 普及課	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			2	7			0.17	0.17
			2	14			0.08	0.08
			2	21			<0.05	<0.05
		山形置賜総合 支所産業経済 部西置賜農業 普及課	0	—			<0.05	<0.05
			2	7			<0.05	<0.05
			2	14			<0.05	<0.05
			2	21			<0.05	<0.05

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)						
					公的分析機関		私的分析機関				
					アセタミプリド		アセタミプリド				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					(財)沖縄環境科学センター (No. 169)		-				
アセロラ (果実) (沖縄:露地 鹿児島:施設) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 556,220L/10a 2回 散布	沖縄病虫害 防除所	0	-	<0.04	<0.04	/	/			
			2	7	0.23	0.22					
			2	14	0.11	0.10					
			2	21	0.03	0.03					
		鹿児島農試	0	-	<0.04	<0.04					
			2	7	0.40	0.40					
			2	14	0.25	0.24					
			2	21	0.12	0.12					
					宮城県農業・園芸総 合研究所(No.201)		-				
アセロラ (果実) (施設) H21,22年度 HPLC法	くん煙剤(15%) 50g/400 m ³	宮城県亘理 農業改良普及 センター(H21年)	0	-	<0.01	<0.01	/	/			
			2	7	0.09	0.09					
			2	14	0.06	0.06					
		宮城県亘理 農業改良普及 センター(H22年)	0	-	<0.01	<0.01					
			2	3	<0.01	<0.01					
			2	7	<0.01	<0.01					
			2	14	<0.01	<0.01					
			2	14	<0.01	<0.01					
					(財)日本食品分析センター (No. 170)	(株)日曹分析センター (No. 170)					
いちじく (果実) (施設) H10年度 HPLC法・GC法)	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 3回 散布	兵庫植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			3	1	0.37	0.37	0.47	0.44			
			3	3	0.25	0.24	0.20	0.20			
		徳島植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			3	1	0.46	0.45	0.44	0.42			
			3	3	0.22	0.21	0.35	0.33			
			3	7	0.12	0.12	0.49	0.47			
									(株)日曹分析センター (No. 171)		
			かりん (果実) (露地) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 1000倍 2回散布 40L/2樹、400L/10a	山梨果試	0	-	/	/	<0.05	<0.05
						2	14			0.35	0.34
2	21	0.26				0.26					
2	30	0.24				0.24					
香川農大	0	-			<0.05	<0.05					
	2	14			0.25	0.24					
	2	21			0.15	0.14					
	2	30			0.12	0.12					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					香川県農業試験場 (No. 200)*			
さるなし (果実) (露地) H19,20年度 HPLC法	水溶剤(20%) 2000倍 300L/10a 2回散布	香川農試 府中 (H19年度)	0	—	<0.05	<0.05	/	/
			2	7	1.69	1.66		
			2	14	1.61	1.61		
			2	21	1.26	1.23		
		香川農試 府中 (H20年度)	0	—	<0.05	<0.05		
			2	7	2.01	1.98		
			2	14	1.91	1.91		
			2	21	1.28	1.26		
					東京都農林総合研究 センター(No. 212)			
ゴレンシ (果実) (施設) H19年度 HPLC法			0	-	<0.05	<0.05	/	/
			3	3	0.21	0.21		
			3	7	0.14	0.14		
			3	14	0.12	0.12		
			3	21	0.09	0.09		
ゴレンシ (果実) (施設) H20年度 LC/MS/MS法	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 3回 散布	東京都小笠原 支庁産業課小 笠原亜熱帯農 業センター	0	-	<0.05	<0.05	/	/
			3	3	0.89	0.88		
			3	7	0.71	0.70		
			3	14	0.72	0.72		
			3	21	0.55	0.55		
ゴレンシ (果実) (施設) H22年度 LC/MS/MS法			0	-	<0.05	<0.05	/	/
			3	3	0.63	0.62		
			3	7	0.11	0.08		
			3	14	0.28	0.27		
			3	21	0.06	0.06		

* 基準値設定に係る試験成績である。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)																																												
					公的分析機関		私的分析機関																																										
					アセタミプリド		アセタミプリド																																										
					最高値	平均値	最高値	平均値																																									
							(株)日曹分析センター (No. 228)*																																										
なたね (乾燥した種子) (露地) H23,24年度 LC/MS/MS法	水溶剤(20%) 4000倍 200,194L/10a 1回 散布	青森植防	0	-	/	/	/	/	/																																								
			1	7						/	/	/	/	/	/																																		
			1	14												/	/	/	/	/	/																												
			1	21																		/	/	/	/	/	/																						
			1	35																								/	/	/	/	/	/																
			1	63																														/	/	/	/	/	/										
		0	-	/	/	/	/	/	/																																								
		1	7							/	/	/	/	/	/																																		
		1	14													/	/	/	/	/	/																												
		1	21																			/	/	/	/	/	/																						
		1	35																									/	/	/	/	/	/																
		1	62																															/	/	/	/	/	/										
0	-	/	/	/	/	/	/																																										
1	7							/	/	/	/	/	/																																				
1	14													/	/	/	/	/	/																														
1	21																			/	/	/	/	/	/																								
1	35																									/	/	/	/	/	/																		
1	62																															/	/	/	/	/	/												
							(株)日曹分析センター (No. 213)																																										
くり (果実) (露地) H23年度 LC/MS/MS法	液剤(2%) 50倍 1回樹幹灌注 1200~1600mL/樹、 □1400~4800mL/樹	岩手林業 技術センター	0	-	/	/	/	/	/																																								
			1	25						/	/	/	/	/																																			
			1	53											/	/	/	/	/																														
		1	96	/																/	/	/	/																										
		0	-																					/	/	/	/	/	/																				
		1	49																											/	/	/	/	/	/														
1	77	/	/		/	/	/	/																																									
1	119								/	/	/	/	/	/																																			
																																				(株)日曹分析センター (No. 221)													
くり (果実) (露地) H24年度 LC/MS/MS法	水溶剤(20%) 2000倍 3回散布 375,400L/10a			日植防 茨城											0	-	/	/	/	/	/																												
															3	7						/	/	/	/	/																							
															3	14											/	/	/	/	/																		
		3	28		/	/	/	/							/																																		
		0	-	/					/	/	/	/	/																																				
		3	7											/		/																/	/	/	/														
		3	14																																	/	/	/	/	/	/								
		3	28																																							/	/	/	/	/	/		
		0	-																																													/	/
3	7	/	/														/	/	/	/																													
3	14																				/	/	/	/	/	/																							
3	28																										/	/	/	/	/																		

*基準値設定に係る試験成績である。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					アセタミプリド		アセタミプリド			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					(財)日本食品分析 センター(No. 172)		(株)日曹分析センター (No. 172)			
茶 (荒茶) (露地) H5年度 統一法(GC法)、 但し私的分析機関 の各下段はGC法 (親化合物のみ 分析)	水溶剤(20%) 2000倍 300L/10a 1回 散布	三重農技センター	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			1	6	54.5	52.3	40.9	39.3		
			1	13	19.8	19.8	17.2	16.8		
			1	20	3.92	3.92	3.63	3.56		
			0	-			<0.05	<0.05		
			1	6			47.3	46.6		
			1	13			18.4	18.2		
			1	20			3.12	3.10		
	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 1回 散布	三重農技センター	1	6	27.2	27.0	26.3	25.2		
			1	13	10.4	9.88	8.45	8.30		
			1	20	2.50	2.38	2.35	2.32		
			1	6			25.2	25.1		
			1	13			8.76	8.66		
			1	20			2.14	2.08		
			水溶剤(20%) 2000倍 300L/10a 1回 散布	福岡農総試 (八女)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					1	7	25.6	25.4	23.6	23.0
	1	14			22.5	21.4	16.7	16.6		
	1	21			5.53	5.48	5.44	5.44		
	0	-					<0.05	<0.05		
	1	7					27.4	27.1		
	1	14					21.1	20.8		
	1	21					5.74	5.37		
	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 1回 散布	福岡農総試 (八女)	1	7	14.6	14.4	14.0	13.8		
			1	14	12.4	12.0	9.78	9.55		
1			21	4.16	4.10	3.72	3.68			
1			7			15.4	15.3			
1			14			10.1	10.0			
1			21			3.63	3.60			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果(ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					アセタミプリド		アセタミプリド			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					(財)日本食品分析 センター(No. 172)		(株)日曹分析センター (No. 172)			
茶 (浸出液) (露地) H5年度 統一法(GC法)、 但し私的分析機関 の各下段はGC法 (親化合物のみ分 析)	水溶剤(20%) 2000倍 300L/10a 1回 散布	三重農技センター	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			1	6	33.9	33.9	27.7	27.0		
			1	13	15.0	14.7	12.7	12.6		
			1	20	2.96	2.88	1.88	1.85		
			0	-			<0.05	<0.05		
			1	6			35.4	34.2		
			1	13			15.9	15.8		
			1	20			2.56	2.40		
	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 1回 散布	三重農技センター	1	6	19.9	19.6	18.8	17.8		
			1	13	7.01	6.68	5.21	5.19		
			1	20	1.57	1.56	1.60	1.58		
			1	6			23.7	22.6		
			1	13			7.52	7.52		
			1	20			2.24	2.20		
			水溶剤(20%) 2000倍 300L/10a 1回 散布	福岡農総試 (八女)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					1	7	16.0	15.8	17.7	17.0
1	14	14.5			14.2	12.0	11.8			
1	21	4.56			4.51	3.30	3.27			
0	-					<0.05	<0.05			
1	7					23.4	22.6			
1	14					17.7	17.6			
1	21					4.73	4.64			
水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 1回 散布	福岡農総試 (八女)	1	7	10.8	10.7	7.83	7.78			
		1	14	10.9	10.7	6.82	6.74			
		1	21	3.20	3.18	1.96	1.91			
		1	7			11.6	11.2			
		1	14			8.67	8.20			
		1	21			2.99	2.96			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 173)		(株)日曹分析センター (No. 173)	
茶 (荒茶) (露地) H12年度 HPLC法、GC法	液剤(18%) 2000倍 200L/10a	三重植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			1	7	10.2	10.2	23.3	23.0
			1	10	13.3	13.2	16.2	16.2
			1	14	4.59	4.57	5.62	5.47
			1	28	1.52	1.51	2.20	2.14
		福岡農総試 (八女)	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			1	7	16.1	16.0	12.3	12.2
			1	10	10.5	10.5	11.0	10.8
			1	14	4.96	4.95	5.48	5.40
			1	28	0.19	0.19	0.25	0.24
茶 (浸出液) (露地) H12年度 GC法	1回 散布	三重植防	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			1	7	/	/	17.6	17.0
			1	10	/	/	14.9	14.4
			1	14	/	/	4.59	4.52
			1	28	/	/	2.10	1.87
		福岡農総試 (八女)	0	—	/	/	<0.05	<0.05
			1	7	/	/	14.5	14.3
			1	10	/	/	10.1	9.74
			1	14	/	/	4.69	4.50
			1	28	/	/	0.26	0.24
					和歌山県農水総合技術 センター(No. 174)		—	
さんしょう (果実) (露地) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 1回 散布	和歌山農水 総技センター (果試)	0	—	<0.1	<0.1	/	/
			1	7	2.1	2.0	/	/
			1	14	2.0	1.9	/	/
			1	21	1.5	1.5	/	/
			1	30	1.9	1.8	/	/
			1	44	1.5	1.5	/	/
		鳥取園試	0	—	<0.1	<0.1	/	/
			1	7	2.1	2.0	/	/
			1	14	2.0	2.0	/	/
			1	21	2.3	2.3	/	/
			1	30	2.1	2.0	/	/
			1	45	1.8	1.8	/	/

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)				
					公的分析機関		私的分析機関		
					アセタミプリド		アセタミプリド		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター (No. 175)		—		
さんしょう (果実) (露地) H17年度 LC/MS法	水溶剤(20%) 200倍 20L/10a 3回 樹幹散布	和歌山農水総 技センター (清水)	0	—	<0.2	<0.2	/	/	
			3	7	<0.2	<0.2			
			3	14	<0.2	<0.2			
			3	21	<0.2	<0.2			
		和歌山農水総 技センター (吉備)	0	—	<0.2	<0.2			
			3	7	<0.2	<0.2			
			3	14	<0.2	<0.2			
			3	21	<0.2	<0.2			
					(滋賀県農業総合センター (No. 176)		—		
さんしょう (葉部) (施設) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 150L/10a 散布	滋賀県農総 センター (農試)	0	—	<0.4	<0.4	/	/	
			6	7	7.5	7.4			
			6	14	5.5	5.1			
			6	30	<0.4	<0.4			
			6	45	<0.4	<0.4			
			6	45	<0.4	<0.4			
		愛知農総試	0	—	<0.4	<0.4			
			6	7	30.6	30.5			
			6	14	15.6	15.5			
			6	30	4.0	4.0			
			6	30	4.0	4.0			
			6	45	1.2	1.2			
					—	(株)日曹分析センター (No. 177)			
あさつき (茎葉) (露地) H17-18年度 HPLC法	粒剤(2%) 6kg/10a(1回) 植溝土壌混和	新潟植防	0	—	/	/	<0.05	<0.05	
			4	7			0.42	0.42	
			4	14			0.18	0.18	
			4	21			0.08	0.08	
		水溶剤(20%) 2000倍 3回散布 150-200L/10a 合計 4回	石川植防	0			—	<0.05	<0.05
				4			7	0.57	0.56
	4			14			0.40	0.38	
	4			14			0.40	0.38	
	4			21			0.12	0.11	
	4			21			0.12	0.11	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					東京都農林総合研究 センター(No. 178)		—	
オレガノ (茎葉) (施設) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 8000倍 300L/10a 3回 散布	東京農総研セン ター(立川夏試 料)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			3	7	1.5	1.4		
			3	14	0.9	0.8		
			3	21	<0.5	<0.5		
		東京農総研セン ター(立川秋試 料)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			3	7	2.1	2.1		
			3	14	1.4	1.3		
			3	21	0.6	0.6		
					愛知県農業総合試験場 (No. 179)		—	
しそ (葉) (施設) H16,17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 200L/10a 2,3回 散布	愛知農総試 (豊橋市)	0	—	<0.05	<0.05	/	/
			3	3	7.20	7.19		
			3	7	2.73	2.66		
			3	14	0.50	0.50		
		宮崎総農試 (宮崎市)	0	—	<0.05	<0.05	/	/
			2	3	5.67	5.67		
			2	7	3.56	3.51		
			2	14	0.66	0.65		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					東京都農業試験場 (No. 180)		—	
セージ (茎葉) (施設) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 8000倍 300L/10a 3回 散布	東京農試 (西東京市)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			3	3	3.7	3.6		
			3	7	2.7	2.7		
			3	14	1.3	1.3		
			3	21	0.9	0.9		
		0	—	<0.5	<0.5			
	東京農試 (立川市)	3	3	5.4	5.4			
		3	7	3.8	3.8			
		3	14	<0.5	<0.5			
		3	21	<0.5	<0.5			
		0	—	<0.5	<0.5			
	東京農試 (西東京市)	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 3回 散布	3	3	6.9	6.8		
3			7	4.4	4.4			
3			14	3.1	3.1			
3			21	1.9	1.9			
0			—	<0.5	<0.5			
3			3	8.2	8.2			
東京農試 (立川市)	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 3回 散布	3	7	4.3	4.3			
		3	14	0.6	0.6			
		3	21	<0.5	<0.5			
		0	—	<0.5	<0.5			
		3	3	8.2	8.2			
					東京都農林総合研究 センター(No. 181)		—	
タイム (茎葉及び花) (施設) H16,17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 8000倍 300L/10a 3回 散布	東京農林総研 センター (立川1)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			3	7	4.6	4.6		
			3	14	1.4	1.4		
			3	21	0.7	0.6		
		東京農林総研 センター (立川2)	0	—	<0.5	<0.5		
			3	7	5.8	5.3		
			3	14	4.7	4.2		
		3	21	2.6	2.4			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					愛知県農業総合試験場 (No. 182)		-	
タラゴン (エストラゴン) (茎葉) (施設) H17、18年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 150L/10a 2回 散布	愛知農総試 (豊川市) 17年度	0	-	<0.05	<0.05	/	/
			2	3	10.21	10.12		
			2	7	6.77	6.64		
			2	14	2.07	2.06		
		愛知農総試 (豊川市) 18年度	0	-	<0.5	<0.5		
			2	3	11.9	11.9		
			2	7	6.6	6.5		
			2	14	1.3	1.3		
					東京都農林総合研究 センター(No. 183)		-	
チャービル (茎葉) (施設) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 8000倍 300L/10a 3回 散布	東京農林総研 センター	0	-	<0.5	<0.5	/	/
			3	7	2.5	2.4		
			3	14	1.8	1.8		
			3	21	1.0	1.0		
		福岡農総試	0	-	<0.5	<0.5		
			3	7	5.3	4.7		
			3	14	3.2	3.2		
			3	21	1.6	1.6		
					福岡県農業総合試験場 (No. 184)		-	
ディル (茎葉) (施設) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 8000倍 300L/10a 3回 散布	東京農林総研 センター	0	-	<0.5	<0.5	/	/
			3	7	<0.5	<0.5		
			3	14	<0.5	<0.5		
			3	21	<0.5	<0.5		
		福岡農総試	0	-	0.10	0.08		
			3	6	6.29	6.24		
			3	14	4.67	4.05		
			3	21	0.50	0.46		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					東京都農業試験場 (No. 185)		—	
レモンバーム (茎葉) (施設) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 300L/10a 3回 散布	東京農試 (西東京市)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			3	7	7.0	7.0		
			3	14	2.4	2.4		
		3	21	1.3	1.3			
		東京農試 (立川市)	0	—	<0.5	<0.5		
			3	7	3.0	3.0		
3	14		0.5	0.5				
3	21	0.3	0.3					
					東京都農業試験場 (No. 186)		—	
はっか(スヘアミント) (茎葉) (施設) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 8000倍 300L/10a 3回 散布	東京農試 (西東京市)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			3	3	7.0	7.0		
			3	7	2.4	2.4		
		3	14	<0.5	<0.5			
		東京農試 (立川市)	0	—	<0.5	<0.5		
			3	3	2.8	2.8		
3	7		2.3	2.3				
3	14	0.8	0.8					
					東京都農業試験場 (No. 187)		—	
バジル (茎葉) (施設) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 8000倍 300L/10a 3回 散布	東京農試 (西東京市)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			3	7	4.7	4.7		
			3	14	3.5	3.5		
		3	21	1.9	1.9			
		東京農試 (立川市)	0	—	<0.5	<0.5		
			3	7	4.1	4.0		
3	14		2.7	2.7				
3	21	1.5	1.5					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使 用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					東京都農林総合研究 センター(No. 188)		—	
マジョラム (茎葉) (施設) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 8000倍 300L/10a 3回 散布	東京農林総研 センター (立川夏試料)	0	—	<0.5	<0.5	/	/
			3	7	1.3	1.2		
			3	14	0.5	0.5		
			3	21	<0.5	<0.5		
		東京農林総研 センター (立川秋試料)	0	—	<0.5	<0.5		
			3	7	4.6	4.6		
			3	14	2.8	2.8		
			3	21	2.2	2.2		
					高知県農業技術 センター(No. 189)		—	
みょうが (花穂) (施設) H15,16年度 HPLC法	くん煙剤(15%) 50g/400 m ³ 3回 くん煙	高知農技センタ ー (窪川)	0	—	<0.04	<0.04	/	/
			3	1	<0.04	<0.04		
			3	3	<0.04	<0.04		
			3	7	<0.04	<0.04		
		高知農技センタ ー (須崎)	0	—	<0.02	<0.02		
			3	1	0.02	0.02		
			3	3	0.03	0.03		
			3	7	0.02	0.02		
					神奈川県農業技術 センター(No. 231)		—	
ザーサイ (肥大茎) (露地) H24年度 HPLC法	水溶剤(20%) 4000倍 250L/10a 1回 散布	神奈川 農技センター (三浦市)	0	-	<0.05	<0.05	/	/
			1	7	<0.05	<0.05		
			1	14	<0.05	<0.05		
			1	21	<0.05	<0.05		
		神奈川 農技センター (横須賀市)	0	-	<0.05	<0.05		
			1	7	<0.05	<0.05		
			1	14	<0.05	<0.05		
			1	21	<0.05	<0.05		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名 (分析部位) (栽培形態) 年度 分析法	剤型 (有効成分含有量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回 数	経 過 日 数	分析結果(ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					アセタミプリド		アセタミプリド	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター (No. 190)		(株)日曹分析センター (No. 190)	
いね科牧草 (茎葉) (露地) H17年度 HPLC法	水溶剤(20%) 6000倍 300、10~100L/10a 3回 散布	鯉渕学園 (茨城)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	42	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	56	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		3	84	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	42	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
3	56		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
3	83	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
					(財)日本食品分析センター (No. 191)		(株)日曹分析センター (No. 191)	
まめ科牧草 (茎葉) (露地) H16、18年度 HPLC法	水溶剤(20%) 6000倍 150又は50~ 100L/10a 3回 散布	日植防研 (茨城)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	42	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	56	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		3	84	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	0.19	0.18	0.07	0.06
			3	42	0.07	0.07	0.03	0.02
3	56		0.01	0.01	<0.01	<0.01		
3	83	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
					(財)日本食品分析センター (No. 192)		(株)日曹分析センター (No. 192)	
飼料用 とうもろこし (茎葉) (露地) H16年度 HPLC法	水溶剤(20%) 6000倍 138~300 L/10a 3回 散布	福島 畜産試験場	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	0.05	0.05	<0.01	<0.01
			3	42	0.05	0.05	<0.01	<0.01
			3	56	0.01	0.01	<0.01	<0.01
		3	84	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		石川植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	28	0.03	0.03	<0.01	<0.01
			3	42	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
3	56		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
3	84	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

注)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

4) 作物残留実態

① 殺虫剤アセタミプリドの作物残留実態について

試験実施機関：(株)日曹分析センター

報告書作成年：1994年

供試化合物：

アセタミプリド (NI-25) 2%粒剤

アセタミプリド (NI-25) 20%水溶剤

供試作物：

キャベツ、だいこん (つまみ菜、葉部、根部)、ばれいしょ、ピーマン、なす、ぶどう (デラ)、いちご、りんご、茶 (荒茶)

目的及び試験方法：

作物残留試験用として実圃場・実使用条件で調製した上記作物を、次の2通りの残留分析方法により、親化合物と に統一される化合物のそれぞれの存在量を測定・比較した。

ア) 親化合物のみを分析する方法

イ) 親化合物、 分析する方法

結果：

次頁の結果表参照

ア) 水溶剤単剤処理した作物 (ぶどう、りんご、いちご、茶、ピーマン等) では最終処理後、経過日数の短い試料では残留物の大部分は親化合物であると考えられた。

イ) 水溶剤単剤処理した作物でも、なす、ぶどう、キャベツ (粒剤との併用)、ピーマン等では最終処理からの日数が長くなるに従って、親化合物の他に収束される代謝物の存在が推定された。

ウ) 粒剤単独処理した作物 (だいこん、ピーマン、なす等) では最終処理後、比較的日数が経過した時点で試料を収穫している。従って上記 2) と同様に収束される代謝物の存在が推定された。

以上より、本剤を作物に処理した場合、処理から比較的経過日数が短い試料では残留物の大部分が親化合物として存在したが、経過日数が長くなるに従って収束される代謝物の生成が示唆され、植物代謝試験の結果とほぼ一致した。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

結果表： アセタミプリド粒剤・水溶剤を処理した作物における残留実態 (1)

作物名	試料調製場所 *	処理回数	経過日数	存在量 (ppm)		備考 (A)/(B) ****
				親のみ		
				(A)	(B) **	
キャベツ	高知 (粒剤+水溶剤)	1 + 5	7	1.21		
		1 + 5	14	0.350		
		1 + 5	21	0.382		
	宮崎 (粒剤+水溶剤)	1 + 5	7	0.864		
		1 + 5	14	0.228		
		1 + 5	21	0.098		
だいこん (葉部)	茨城 (粒剤)	1	13	2.02		
		1	20	0.500		
		1	42	< 0.005		
	福井 (粒剤)	1	12	0.405		
		1	26	0.020		
		1	70	< 0.005		
	茨城	1	14	< 0.005		
		1	21	< 0.005		
		1	30	< 0.005		
	福井	1	14	0.092		
		1	21	0.038		
		1	30	< 0.005		
だいこん (根部)	茨城 (粒剤)	1	42	< 0.005		
		1	70	< 0.005		
	茨城	1	14	< 0.005		
		1	21	< 0.005		
		1	32	< 0.005		
		1	14	< 0.005		
福井	1	21	< 0.005			
	1	21	< 0.005			
	1	30	< 0.005			
	1	30	< 0.005			
ばれいし よ	茨城	3	7	< 0.005		
		3	14	< 0.005		
		3	21	< 0.005		
	高知	3	7	< 0.005		
		3	14	< 0.005		
		3	21	< 0.005		

*: 注釈のないものはすべて水溶剤

** : NI-25 換算

*** : つまみ菜の回収率での補正

**** : (A)/(B)×100

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

結果表： アセタミプリド粒剤・水溶剤を処理した作物における残留実態 (2)

作物名	試料調製場所 *	処理回数	経過日数	存在量 (ppm)		備考 (A)/(B) ***
				親のみ		
				(A)	(B) **	
ピーマン	高知 (粒剤)	1	93	< 0.005		
	鹿児島 (粒剤)	1	44	0.035		
	高知	3	1	2.52		
		3	3	2.38		
		3	7	1.93		
	鹿児島	3	1	1.66		
		3	3	1.73		
		3	7	0.478		
なす	長野 (粒剤)	1	63	< 0.005		
	徳島 (粒剤)	1	60	< 0.005		
	長野	3	1	0.153		
		3	3	0.101		
		3	7	0.046		
	徳島	3	1	0.514		
		3	3	0.596		
		3	7	0.191		
ぶどう	秋田	2	14	2.90		
		2	21	2.65		
		2	28	2.80		
		2	45	1.03		
	石川	2	14	1.64		
		2	21	1.09		
		2	28	0.764		
		2	45	0.137		
いちご	栃木	2	1	0.183		
		2	3	0.123		
		2	7	0.116		
	宮崎	2	1	0.436		
		2	3	0.429		
		2	7	0.285		

*: 注釈のないものはすべて水溶剤

** : NI-25 換算

*** : (A)/(B)×100

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

結果表： アセタミプリド粒剤・水溶剤を処理した作物における残留実態 (3)

作物名	試料調製場所 *	処理回数	経過日数	存在量 (ppm)		備考 (A)/(B) ***
				親のみ		
				(A)	(B) **	
りんご	岩手	2	14	0.169		
		2	21	0.186		
		2	28	0.173		
	長野	2	14	0.578		
		2	20	0.488		
		2	28	0.445		
茶 (荒茶)	三重 (×2000)	1	6	49.1		
		1	13	19.2		
		1	20	3.26		
	福岡 (×2000)	1	7	28.5		
		1	14	21.9		
		1	21	5.65		
	三重 (×4000)	1	6	26.4		
		1	13	9.12		
		1	20	2.19		
	福岡 (×4000)	1	7	16.1		
		1	14	10.5		
		1	21	3.79		

*: 注釈のないものはすべて水溶剤

** : NI-25 換算

*** : (A)/(B)×100

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

② 市販の果実（りんご、みかん、いちご）中のアセタミプリド残留実態調査

試験実施機関：(株)日曹分析センター

報告書作成年：2008年

試験実施の背景：

は、農作物に残留したアセタミプリドによる中毒の大量発生を指摘している。発症に先立って、ブドウ、梨、桃、イチゴ、みかん、メロン、緑茶などを通常よりやや多い量（ブドウなら一房、イチゴなら1箱、緑茶ならペットボトルのお茶を1日当たり500 mLなど）を連日摂取したことが患者の共通点であり、これらの作物に残留するアセタミプリドが中毒の原因であるとしている。

そこで、市販の果実およびペットボトルのお茶中のアセタミプリドの残留実態調査を行った。

供試作物：

市販のりんご、みかん及びいちご

購入場所：神奈川県小田原市内の小売店（購入から分析までは冷凍保存した）。

分析対象化合物：

国内登録用に提出した植物代謝試験の結果、主たる残留物は親化合物であったことから、親化合物を残留分析対象化合物とした。

(E)-N¹-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N²-シアノ-N¹-メチルアセトアミジン

C₁₀H₁₁ClN₄ M.W.222.68 (アセタミプリド)

分析法の原理と操作概要：

試料に を加えて抽出した後、固相抽出カラムで精製し、液体クロマトグラフで定量した。尚、確認のため液体クロマトグラフ質量分析計（LC/MS/MS）を用いた定量も行った。定量限界は0.01 ppmである。

試験結果：

試験結果を次頁に示す。調査を行った作物の暫定残留基準値は、りんご及びいちごは5 ppm、温州みかんは1 ppmである。今回の調査結果では基準値よりはるかに低い濃度の残留が認められたただけであった（申請者注）。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

市販のりんご、いちご、温州みかん中のアセタミプリドの分析結果

試料	産地および品種	購入日	分析日	残留濃度 (ppm) ()内は LC/MS/MS 測定値
りんご	青森、サンフジ	H20/ 1/17	H20/ 1/22	<0.01 (<0.01)
	青森、サンフジ			<0.01 (<0.01)
	長野、ふじ			0.01 (<0.01)
	青森、王林			0.02 (0.02)
	山形、ふじ			0.01 (0.01)
	青森、ジョナゴールド			<0.01 (<0.01)
	岩手、金星	H20/ 1/29	H20/ 1/31	0.02 (0.01)
	青森、世界一			<0.01 (<0.01)
	青森、むつ			0.01 (<0.01)
	山形、ふじ			0.01 (0.01)
いちご	静岡、あきひめ	H20/ 1/17	H20/ 1/24	0.01 (0.01)
	神奈川、紅ほっぺ			<0.01 (<0.01)
	福岡、あまおう			<0.01 (<0.01)
	熊本、ひのしずく			0.05 (0.06)
	神奈川、とちおとめ	H20/ 1/29	H20/ 2/ 4	<0.01 (<0.01)
	栃木、とちおとめ			<0.01 (<0.01)
	栃木、とちおとめ			0.03 (0.03)
	栃木、とちおとめ			<0.01 (<0.01)
	静岡、紅ほっぺ			0.03 (0.04)
	静岡、紅ほっぺ			<0.01 (<0.01)
温州みかん (果肉) (品種不明)	愛媛	H20/ 1/17	H20/ 1/24	<0.01 (<0.01)
	神奈川			<0.01
	静岡			<0.01
	熊本			<0.01
	和歌山			<0.01
	静岡			<0.01
	福岡	H20/ 1/29	H20/ 2/ 4	<0.01
	山口			<0.01
	神奈川			<0.01
	静岡			<0.01 (<0.01)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

③日本茶（ペットボトル入り清涼飲料水）中のアセタミプリドの分析(1)

試験実施機関：(株)日曹分析センター

報告書作成年：2007年

供試作物：

市販の日本茶（ペットボトル入り清涼飲料水）

購入日：平成19年9月6日

購入場所：神奈川県小田原市内の自動販売機

分析対象化合物：

国内登録用に提出した植物代謝試験の結果、主たる残留物は親化合物であったことから、親化合物を残留分析対象化合物とした。

(E)-N¹-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N²-シアノ-N¹-メチルアセトアミジン

C₁₀H₁₁ClN₄ M.W.222.68（アセタミプリド）

分析法の原理と操作概要：

試料に を加え、液体クロマ

トグラフ質量分析計（LC/MS/MS）で定量する。定量限界は0.01 ppmである。

試験結果：

試験結果を次頁に示す。今回の調査では、アセタミプリドの残留量はすべて定量限界（0.01 ppm）未満であった。

茶の暫定残留基準値は荒茶で50 ppmであり、登録用に実施した茶の作物残留試験では、浸出液中のアセタミプリドの最大残留量は0.25 ppmであった（申請者注）。

市販の日本茶（ペットボトル入り清涼飲料水）中のアセタミプリドの分析結果

商品名	販売元	識別番号	残留濃度 (ppm)
若武者	アサヒ飲料株式会社	080313/NY2 2153	<0.01
お茶	株式会社山本山	080410/YM2	<0.01
本茶房	大塚ビバレッジ	080325 10:53	<0.01
茶織	ココロナショナルビバレッジ株式会社	071229/EE6 1232003 385036	<0.01
天晴	ジェイティーフーズ株式会社	080404/HT3 1923	<0.01
生茶	キリンビバレッジ株式会社	080322/K13 G27K00K13	<0.01
伊右衛門	サントリーフーズ株式会社	080214/WJ #1422250H	<0.01

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

④ 日本茶（ペットボトル入り清涼飲料水）中のアセタミプリドの分析(2)

試験実施機関：(株)日曹分析センター

報告書作成年：2008年

供試作物：

市販の日本茶（ペットボトル入り清涼飲料水）

購入日：平成20年1月30日および2月5日

購入場所：神奈川県小田原市内の自動販売機および小売店

分析対象化合物：

国内登録用に提出した植物代謝試験の結果、主たる残留物は親化合物であったことから、親化合物を残留分析対象化合物とした。

(E)-N¹-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N²-シアノ-N¹-メチルアセトアミジン

C₁₀H₁₁ClN₄ M.W.222.68（アセタミプリド）

分析法の原理と操作概要：

試料に を加え、液体クロマト
グラフ質量分析計（LC/MS/MS）で定量する。定量限界は0.01 ppmである。

試験結果：

試験結果を次頁に示す。今回の調査では、アセタミプリドの残留量はすべて定量限界（0.01 ppm）未満であった。

茶の暫定残留基準値は荒茶で50 ppmであり、登録用に実施した茶の作物残留試験では、浸出液中のアセタミプリドの最大残留量は0.25 ppmであった（申請者注）。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

市販の日本茶（ペットボトル入り清涼飲料水）中のアセタミプリドの分析結果

購入日：平成 20 年 1 月 30 日

購入場所：神奈川県小田原市内の自動販売機

試料分析日：平成 20 年 1 月 30 日

商品名	販売元	識別番号	残留濃度 (ppm)
若武者	アサヒ飲料株式会社	B/R10	<0.01
お茶	株式会社山本山	080612/YM2	<0.01
本茶房	大塚ビバレッジ	080706 16:45	<0.01
茶織	ココロナショナルビバレッジ株式会社	080513/EEB 1121L16 237796	<0.01
綾鷹	ココロナショナルビバレッジ株式会社	080322-HEB C1055J27 60659	<0.01
生茶	キンビバレッジ株式会社	K19B44K13	<0.01
伊右衛門	サントリーフーズ株式会社	L195AA 080809/WD	<0.01

購入日：平成 20 年 2 月 5 日

購入場所：神奈川県小田原市内の小売店

試料分析日：平成 20 年 2 月 5 日

商品名	販売元	識別番号	残留濃度 (ppm)
ヘルシア緑茶 まろやか	花王株式会社	J3567 22F36	<0.01
胡麻麦茶	サントリー株式会社	090103/SE 05:40	<0.01
健茶王	カルピス株式会社	080901/SC LOT 21:11	<0.01
ヘルシア あったか緑茶	花王株式会社	L3517 17E06	<0.01
黒烏龍茶	サントリー株式会社	081027/WB L091HS	<0.01

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

申請者の摂取暴露評価に関する考察：

アセタミプリドの短期摂取暴露評価試算

果樹および茶について、作物残留試験（ペットボトルの茶飲料については残留実態調査）の最大残留値および1日あたりの推定最大摂取量を用いて、短期摂取暴露評価を行った。急性参照値は、欧州連合で設定されているARfD値を用いた。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

2. 乳汁試験

試験未実施

根拠条文：12 農産第 8147 号 記 4 別表 2 ①

具体的理由：家畜の飼料の用に供される農作物以外の農作物に使用される場合に該当するため。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

3. 家畜代謝試験

1) ^{14}C -標識アセタミプリドを用いたニワトリにおける代謝試験

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1999年

供試標識化合物：

[]アセタミプリド

比放射能：

放射化学的純度：

* 標識位置

標識位置の設定理由：

供試植物：

ニワトリ（白色レグホン交配種）、低用量群および高用量群、各々5羽

試験方法：

- ①飼育条件： 馴化の後、投与期間中は代謝ケージにて飼育した。
- ②投与方法： 1日分の投与薬物を毎朝、排出物および卵を採取した後に、セルロースの粉末に混ぜ、ゼラチンカプセルに容れて1日1回、14日間の反復経口投与を行った。
- ③投与量： 低用量または高用量として各々0.15または1.5 mg/hen/day (1または10 mg/kg diet、即ち1または10 ppmに相当)
- ④サンプリング
 - 卵： 投与期間中、卵を1日2回採取した。卵黄と卵白に分け、24時間毎かつ鶏毎に保存した。
 - 排出物： 各鶏の排出物を、投与期間の24時間毎および屠殺時に採取した。
 - 血液： 血液（各鶏当たり約20-30 mL）をヘパリン処理したフラスコに採取した。血液を遠心分離にかけて血漿を得、分析に供するまで約-20°Cで保存した。
 - 臓器および組織： 屠殺後、可食部、即ち肝臓、筋肉（胸部および大腿部の大部分）、脂肪（腹膜の大部分）、皮膚（皮下脂肪を含む）および卵管内で発育中の卵を採取した。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

ケージ洗浄液： 鶏を屠殺後、ケージを で洗浄し、その液
を採取した。

⑤分析方法： 各サンプルにおける総残留放射能（TRR）を液体シンチレーションカウンター
で測定した。

試験結果：

投与された放射能の平均回収率（投与量%）

サンプル	低用量群	高用量群
排出物		
ケージ洗浄液		
排出物 小計		
卵		
臓器・組織*・血液		
総計		

*：卵管内で発育中の卵を含む

14日間の経口投与の間に排出物中に出された放射能の平均値の累計（投与量%）

投与日数	低用量群	高用量群
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

低用量または高用量において、投与された放射能の大部分、即ち各々 または は、排出物
中に検出された。卵からの放射能の総回収率は低用量群および高用量群で各々 および だった。
ケージ洗浄液、産出された卵、卵管内で発育中の卵、臓器、組織および血液における放射能の総回収率
（投与量%）は平均で であつた。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

卵における放射能濃度の平均値 (µg eq/g)

投与日数	低用量群		高用量群	
	卵白	卵黄	卵白	卵黄
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				

低用量群および高用量群において、産出された卵で検出された放射能の濃度は低く、投与開始後4日目から8日目の間に安定した。残留放射能の最高濃度は卵黄の低用量群で、高用量群でだった。卵白における放射能の最高濃度は、低用量群で、高用量群でだった。これらの値は投与量と相関していた。以上のことから、吸収されたアセタミプリドの排泄経路として、親化合物であっても代謝物でも、卵は主たるものではないと考えられた。

組織における放射能濃度の平均値 (µg eq/g)

組織	低用量群	高用量群
肝臓		
筋肉 ^a		
脂肪 ^b		
皮膚 (脂肪を含む)		
全血		
血漿		
発育中の卵 ^c (卵白)		
発育中の卵 ^c (卵黄)		

- a 胸部および大腿部
- b 腹膜における
- c 卵管内のもの

可食部の放射能濃度は、低用量群では卵管内で発育中の卵に含まれる卵黄で最も高く、脂肪で最も低かった。また、高用量群では肝臓で最も高く、脂肪で最も低かった。組織における放射能濃度は高用量群の方が低用量群よりも各部の平均で約12倍高かった。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

アセタミプリドを反復投与したニワトリで同定された代謝物のまとめ

組織またはサンプル	代謝物	高用量群	
		%TRR	濃度 (µg eq/g)
肝臓			
筋肉			
皮膚 (脂肪を含む)			
卵白*			
卵黄*			
排出物*			

TRR： 総残留放射能

*： 投与開始後 13-14 日に採取

**： 低用量群に同じ

アセタミプリドのニワトリにおける代謝経路には、最初の親化合物の代謝物が含まれると考えられた。代謝物の特性は、低用量群と高用量群とで同様であり、またラットと泌乳ヤギでみられたものと一致していた。なお、脂肪については、残留放射能のレベルが総じて低かったため、代謝物に関する詳細な調査を行わなかった。

結論

アセタミプリドをニワトリへ反復経口投与した結果、投与された放射能の大部分は排出物中に出され、組織では低い濃度で残留した。親化合物または代謝物が卵および可食部（肝臓、筋肉、脂肪、皮膚）で有意に蓄積することの証拠は得られなかった。吸収された投与薬物は代謝され、速やかに排泄されるようであった。ラットとヤギの代謝と同様に、組織における主要な残留物は親化合物と同定された。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

この試験の結果からアセタミプリドのニワトリにおける推定代謝経路を以下に示す。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

2) ^{14}C -標識アセタミプリドを用いたヤギにおける代謝試験

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1999年

供試標識化合物：

[]アセタミプリド

比放射能：

放射化学的純度：

* 標識位置

標識位置の設定理由：

供試植物：

雌ヤギ（ザーネン種）、動物番号1（低用量）および2（高用量）の計2頭を用いた。

試験方法：

- ①飼育条件： 馴化の後、投与期間中は代謝ケージで飼育した。
- ②投与方法： 1日分の投与薬物を二等分し、1回は朝、もう1回は午後、いずれも搾乳後に、セルロースの粉末に混ぜ、ゼラチンカプセルに容れて泌乳ヤギに反復経口投与した。
- ③投与時期： 泌乳期（7日間投与）
- ④投与量： 低用量または高用量として2または20 mg/goat/day（飼料中濃度として各々、1または10 mg/kg diet、即ち1または10 ppmに相当）
- ⑤サンプリング
 - 尿および糞： 投与開始前に採取し、また投与期間中の24時間毎ならびに最終投与から屠殺までの間に採取した。
 - 乳汁： 投与開始前に採取し、また投与期間中は各投与（1日2回、朝と午後）の前に採取した。
 - 血液： 投与開始前に採取し、また投与期間中は各投与の前ならびに屠殺の前に採取した。
 - 臓器または組織： 最終投与から約22時間後に2頭のヤギを屠殺し、可食部（肝、腎、筋肉、脂肪）ならびに腸管の内容物を採取した。
 - ケージ洗浄液： 屠殺時にケージを で洗浄し、その液を採取した。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

⑥分析方法： 各サンプルにおける総残留放射能（TRR）を液体シンチレーションカウンターで測定した。

試験結果：

投与された放射能の回収率（投与量%）

サンプル		動物番号 1 (低用量)	動物番号 2 (高用量)
排泄物/分泌物	尿		
	糞		
	ケージ洗浄液		
	乳汁		
	小計		
腸管の内容物			
可食部（肝、腎、筋肉、脂肪）および血液*			
総計			

* 筋肉、脂肪および血液については、その重さが体重当たり各々40%、12%および 8%占めると仮定して計算した。

経口投与中に排泄された放射能の累計（投与量%）

時間	動物番号 1 (低用量)			動物番号 2 (高用量)		
	尿	糞	乳汁	尿	糞	乳汁
24						
48						
72						
96						
120						
144						
168						
174						

糞への放射能の排泄率が低用量および高用量で各々 および といずれも低率であったことから、投与されたアセタミプリドは腸管で高率に吸収されたものと推察される。投与された放射能の大部分 は尿中に排泄された。一方、乳汁への放射能の排泄は明らかに低率 だった。これらのことから、アセタミプリドの主たる排泄経路は尿であり、乳汁ではないと考えられる。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

乳汁における放射能の濃度 (μg eq/g)

時間	動物番号 1 (低用量)	動物番号 2 (高用量)
投与前		
8		
24		
32		
48		
56		
72		
80		
96		
104		
120		
128		
144		
152		
168		
174		

乳汁における放射能の最高濃度は、低用量 _____、高用量 _____ だった。投与期間を通じて低用量・高用量ともに増加傾向にはなかったことから、アセタミプリドが乳汁中に蓄積する可能性は低いと考えられた。

組織における放射能の濃度 (μg eq/g)

組織	動物番号 1 (低用量)	動物番号 2 (高用量)
肝臓		
腎臓		
筋肉		
脂肪		
血漿		
全血		

動物番号 1 (低用量) における残留放射能の濃度は肝臓 _____ における値を最高に、可食部 (肝、腎、筋肉、脂肪) を含むすべての臓器または組織で _____ だった。動物番号 2 (高用量) における濃度は筋肉、脂肪、血液 (血漿および全血) で比較的 low、肝および腎で比較的高かった。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

アセタミプリドを反復投与したヤギで同定された代謝物のまとめ

組織またはサンプル	代謝物	動物番号 2 (高用量)	
		%TRR	濃度 (µg eq/g)
肝臓			
腎臓			
筋肉			
乳汁			
尿			
糞			

TRR : 総残留放射能

* : 〃 に同じ

** : 投与開始後 144-168 時間に採取

肝、腎、筋肉、乳汁、尿および糞のいずれにおいても主たる代謝物として 〃 が同定された。アセタミプリドのヤギにおける代謝経路には親化合物の 〃 が含まれると考えられた。それら一次代謝物が更に受ける代謝 (第二相) については確証がなかった。この試験でみられた代謝物の特性は、高用量の場合と低用量の場合とで同様だった。なお、脂肪については放射能の残留レベルが低かったことから、代謝物に関する詳細な調査を行わなかった。

結論

放射性標識したアセタミプリドを泌乳期にあるヤギに反復経口投与した結果、吸収率は高く、その大部分は尿中に排泄された。乳汁は主たる排泄経路ではなかった。吸収されたアセタミプリドは代謝され、組織中での残留は少なく、速やかに排泄されるものと考えられた。アセタミプリドが乳汁およびその他の可食部 (肝、腎、筋肉、脂肪) で蓄積することの証拠は得られなかった。主要な組織中残留物はラットおよび産卵鶏でも検出された 〃 と同定された。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

ヤギにおける推定代謝経路を以下に示す。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

4. 家畜残留試験

1) 乳牛の牛乳および組織中のアセタミプリドの残留試験

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1999 年

① 投与群

11 頭のホルスタイン乳牛を用い、以下の投与群で試験を実施した。

I 群： 無投与群、2 頭

II 群： 6 ppm 投与、3 頭

III 群： 18 ppm 投与、3 頭

IV 群： 60 ppm 投与、3 頭

② 投与方法

アセタミプリドのカプセル化製剤を 1 日 1 回午前中に、ガンタイプの投薬器により 28 日間連続で強制経口投与した。

③ 試料採取

牛乳： 投与開始 1 日前、投与後 1、4、8、11、15、18、22、25 および 27 日後に牛ごとに採取した。

組織（筋肉、脂肪、腎臓、肝臓）： 28 日目の投与後 24 時間以内に牛ごとに採取した。

④ 分析対象化合物

動物代謝試験の結果、主たる残留物は親化合物および であったことから、これらの化合物を対象とした。

(E)-N¹-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N²-シアノ-N¹-メチルアセトアミジン

C₁₀H₁₁ClN₄ M.W. 222.68 (アセタミプリド)

⑤ 分析法の原理と操作概要

試料中の分析対象化合物を で抽出し、 に転溶後、カラムクロマトグラフィで精製し、高速液体クロマトグラフ (UV 検出器) で定量する。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

⑥ 残留試験結果

試料名 (分析部位)	群	投与方法 投与回数 投与期間	試料 調製 場所	試料 採取日 (日)	分析結果 (ppm)			
					分析機関：			
					アセタミプリド			
					最大値	平均値*	最大値	平均値*
乳牛 (牛乳) 1998年度 RD-09989	I 0 ppm (0.00 ppm)	強制 経口 投与 1回/日 28日		-1	—	<0.01		
				1	—	<0.01		
				4	—	<0.01		
				8	—	<0.01		
				11	—	<0.01		
				15	—	<0.01		
				18	—	<0.01		
				22	—	<0.01		
				25	—	<0.01		
	27			—	<0.01			
	-1			<0.01	<0.01			
	1			0.014	0.012			
	4			0.017	0.014			
	8			0.015	0.013			
	11			0.018	0.016			
	15			0.015	0.014			
	18			0.016	0.014			
	22			0.017	0.016			
	25			0.017	0.015			
	27			0.016	0.015			
	-1			<0.01	<0.01			
	1			0.059	0.055			
	4			0.057	0.047			
	8			0.063	0.048			
	11			0.060	0.048			
	15			0.050	0.042			
	18			0.051	0.044			
22	0.079	0.059						
25	0.061	0.045						
27	0.066	0.053						
	III 18 ppm (17.44 ppm)							

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

試料名 (分析部位) 年度 報告書番号	群 設定投与量 (対乾燥飼料重量) (実測投与量)	投与方法 投与回数 投与期間	試料 調製 場所	試料 採取日 (日)	分析結果 (ppm)			
					分析機関：			
					アセタミプリド			
					最大値	平均値*	最大値	平均値*
乳牛 (牛乳) 1998年度 RD-09989	IV 60 ppm (58.63 ppm)	強制 経口 投与 1回/日 28日		-1	<0.01	<0.01		
				1	0.26	0.21		
				4	0.22	0.19		
				8	0.20	0.19		
				11	0.23	0.21		
				15	0.21	0.18		
				18	0.19	0.18		
				22	0.20	0.18		
				25	0.18	0.17		
				27	0.20	0.19		

*：申請者計算

全乳中のアセタミプリドの残留濃度は、経過日数に係りなく投与量に依存しており、残留濃度の急速な減衰により約1日後には平衡濃度に達した。一方、全乳中の は投与量と時間に依存しており、約8日後に平衡に達した。各投与群の濃度範囲と平均平衡濃度は以下の通りであった。

群	アセタミプリド の実測投与量	アセタミプリド の平均平衡濃度 (ppm) 1-27日	アセタミプリド の濃度範囲(ppm) 1-27日	の平均 平衡濃度(ppm) 8-27日	の 濃度範囲(ppm) 8-27日
I	0.0	<0.01	ND - <0.01		
II	5.77	0.014	<0.010 - 0.018		
III	17.4	0.049	0.026 - 0.079		
IV	58.6	0.19	0.15 - 0.26		

全乳中のアセタミプリドおよび の濃度は、投与量依存性を示した。アセタミプリドのIV群とIII群およびIII群とII群の平均平衡濃度比はそれぞれ、であった。
の平均平衡濃度比も同様にIV群/III群およびIII群/II群で、それぞれであった。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

試料名 (分析部位) 年度 報告書番号	群 設定投与量 (対乾燥飼料重量) (実測投与量)	投与方法 投与回数 投与期間	試料調 製場所	分析結果 (ppm)			
				分析機関 :			
				アセタミプリド			
				最大値	平均値	最大値	平均値
乳牛 (筋肉) 1998年度 RD-09989	I / 0 ppm (0.00 ppm)			—	<0.01		
	II / 6 ppm (5.77 ppm)			<0.01	<0.01		
	III / 18 ppm (17.44 ppm)			0.029	0.019		
	IV / 60 ppm (58.63 ppm)			0.11	0.074		
乳牛 (脂肪) 1998年度 RD-09989	I / 0 ppm (0.00 ppm)	強制 経口 投与		—	<0.01 (n=4)		
	II / 6 ppm (5.77 ppm)			<0.01	<0.01		
	III / 18 ppm (17.44 ppm)			0.013	0.011		
	IV / 60 ppm (58.63 ppm)			0.064	0.033		
乳牛 (肝臓) 1998年度 RD-09989	I / 0 ppm (0.00 ppm)	1回/日 28日		—	<0.05		
	II / 6 ppm (5.77 ppm)			<0.05	<0.05		
	III / 18 ppm (17.44 ppm)			0.060	0.053		
	IV / 60 ppm (58.63 ppm)			0.25	0.16		
乳牛 (腎臓) 1998年度 RD-09989	I / 0 ppm (0.00 ppm)			—	<0.05		
	II / 6 ppm (5.77 ppm)			<0.05	<0.05		
	III / 18 ppm (17.44 ppm)			<0.05	<0.05		
	IV / 60 ppm (58.63 ppm)			0.14	0.094		

28日後に採取した各組織中のアセタミプリドおよび の残留濃度は、投与量依存性であった。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

⑦ 分析法の添加回収試験結果

分析品目	回収率 ± 標準偏差 (%)	
	アセタミプリド	
牛乳	93.1 ± 4.7 (n=30)	
肝臓	92.7 ± 6.7 (n=3)	
脂肪	91.0 ± 1.8 (n=4)	
腎臓	92.6 ± 3.6 (n=3)	
筋肉	92.2 ± 4.4 (n=3)	
飼料	71.6 (n=2)	
水	99.3 (n=2)	

n = 繰り返し分析数

以上の結果より、本試験を通じて適切な分析が実施されたと考えられる。

申請者注)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

2) にわたりの組織および卵中のアセタミプリドの残留試験

試験実施機関：

[GLP 対応]

報告書作成年：1999 年

① 投与群

40 羽の鶏を用い、以下の投与群で試験を実施した。

- I 群： 無投与群、10 羽
- II 群： 1.2 ppm 投与群、10 羽
- III 群： 3.6 ppm 投与群、10 羽
- IV 群： 12 ppm 投与群、10 羽

② 投与方法

アセタミプリドのカプセル化製剤を、1 日 1 回午前中に 28 日間連続で強制経口投与した。

③ 試料採取

- 卵： 投与開始 1 日前、投与後 1、4、8、11、15、18、22、25 および 27 日後に 3-4 羽の 3 つのサブグループごとに採取
- 組織（筋肉、脂肪、肝臓）： 28 日目の投与後 24 時間以内に 3-4 羽の 3 つのサブグループごとに採取

④ 分析対象化合物

動物代謝試験の結果、主たる残留物は親化合物および であったことから、これらの化合物を対象とした。

(E)-N¹-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N²-シアノ-N¹-メチルアセトアミジン

C₁₀H₁₁CIN₄ M.W.222.68 (アセタミプリド)

⑤ 分析法の原理と操作概要

試料中の分析対象化合物を で抽出し、 に転溶後、カラムクロマトグラフィで精製し、高速液体クロマトグラフ (UV 検出器) で定量する。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

⑥ 残留試験結果

試料名 (分析部位)	群	投与方法 投与回数 投与期間	試料 調製 場所	試料 採取日 (日)	分析結果 (ppm)			
					分析機関：			
					アセタミプリド			
					最大値	平均値*	最大値	平均値*
にわとり 卵 1998年度 RD-09988	I 0 ppm (0.00 ppm)	強制 経口 投与 1回/日 28日		-1	—	<0.01		
				1	—	<0.01		
				4	—	<0.01		
				8	—	<0.01		
				11	—	<0.01		
				15	—	<0.01		
				18	—	<0.01		
				22	—	<0.01		
				25	—	<0.01		
	27			—	<0.01			
	-1			<0.01	<0.01			
	1			<0.01	<0.01			
	4			<0.01	<0.01			
	8			<0.01	<0.01			
	11			<0.01	<0.01			
	15			<0.01	<0.01			
	18			<0.01	<0.01			
	22			<0.01	<0.01			
	25			<0.01	<0.01			
	27			<0.01	<0.01			
	-1			<0.01	<0.01			
	1			<0.01	<0.01			
	4			<0.01	<0.01			
	8			<0.01	<0.01			
	11			<0.01	<0.01			
	15			<0.01	<0.01			
	18			<0.01	<0.01			
22	<0.01	<0.01						
25	<0.01	<0.01						
27	<0.01	<0.01						
	III 3.6 ppm (3.51 ppm)			-1	<0.01	<0.01		
				1	<0.01	<0.01		
				4	<0.01	<0.01		
				8	<0.01	<0.01		
				11	<0.01	<0.01		
				15	<0.01	<0.01		
				18	<0.01	<0.01		
				22	<0.01	<0.01		
				25	<0.01	<0.01		
				27	<0.01	<0.01		

* : 申請者計算

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

試料名 (分析部位) 年度 報告書番号	群 設定投与量 (対乾燥飼料重量) (実測投与量)	投与方法 投与回数 投与期間	試料 調製 場所	試料 採取日 (日)	分析結果 (ppm)			
					分析機関:			
					アセタミプリド			
					最大値	平均値*	最大値	平均値*
にわとり 卵 1998年度 RD-09988	IV 12 ppm (12.0 ppm)	強制 経口 投与 1回/日 28日		-1	<0.01	<0.01		
				1	<0.01	<0.01		
				4	<0.01	<0.01		
				8	<0.01	<0.01		
				11	<0.01	<0.01		
				15	<0.01	<0.01		
				18	<0.01	<0.01		
				22	<0.01	<0.01		
				25	<0.01	<0.01		
				27	<0.01	<0.01		

* : 申請者計算

鶏卵中のアセタミプリドの残留濃度は、全て定量限界 (0.01 ppm) 未満であった。一方、鶏卵中の濃度は、投与量と時間に依存しており、経過日数が長くなるにつれて増加し、約8日後に平衡に達した。各投与群の濃度範囲と平均平衡濃度は以下の通りであった。

群	アセタミプリドの実測投与量	の平均 平衡濃度(ppm) 8-27日	の 濃度範囲(ppm) 8-27日
I	0.0		
II	1.16		
III	3.51		
IV	12.0		

鶏卵中の の濃度は、投与量依存性を示した。 のIV群とIII群およびIII群とII群の平均平衡濃度比はそれぞれ、 であった。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

試料名 (分析部位) 年度 報告書番号	群 設定投与量 (対乾燥飼料重量) (実測投与量)	投与方法 投与回数 投与期間	試料調 製場所	分析結果 (ppm)					
				分析機関 :					
				アセタミプリド					
				最大値	平均値*	最大値	平均値*		
にわとり (脂肪) 1998年度 RD-09988	I / 0 ppm (0.00 ppm)	強制 経口 投与 1回/日 28日		—	<0.01 (n=2)				
	III / 3.6 ppm (3.51 ppm)			<0.01	<0.01				
	IV / 12 ppm (12.0 ppm)			<0.01	<0.01				
にわとり (肝臓) 1998年度 RD-09988	I / 0 ppm (0.00 ppm)					—	<0.01 (n=2)		
	II / 1.2 ppm (1.16 ppm)					<0.01	<0.01		
	III / 3.6 ppm (3.51 ppm)					<0.01	<0.01		
	IV / 12 ppm (12.0 ppm)					<0.01	<0.01		
にわとり (筋肉) 1998年度 RD-09988	I / 0 ppm (0.00 ppm)					—	<0.01 (n=3)		
	II / 1.2 ppm (1.16 ppm)					<0.01	<0.01		
	III / 3.6 ppm (3.51 ppm)					<0.01	<0.01		
	IV / 12 ppm (12.0 ppm)					<0.01	<0.01		

* : 申請者計算

アセタミプリドはいずれの組織でも定量限界未満 (<0.01 ppm) であった。 は肝臓中で
、筋肉中で 、脂肪中で の範囲で検出された。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

7) 分析法の添加回収試験結果

分析品目	回収率 ± 標準偏差 (%)	
	アセタミプリド	
卵	94.7 ± 2.6 (n=28)	
肝臓	92.9 ± 2.2 (n=4)	
脂肪	97.8 ± 2.8 (n=4)	
筋肉	98.7 ± 4.0 (n=3)	
飼料	95.4 (n=2)	
水	101 (n=2)	

n = : 繰り返し分析数

以上の結果より、本試験を通じて適切な分析が実施されたと考えられる。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

5. 土壌残留試験

3.1 予備試験

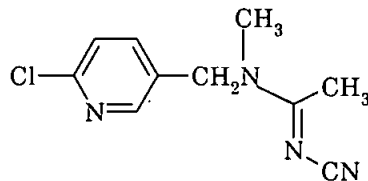
粒剤の使用方法は、株元または植穴の局所施用であるため、残留試験用の土壌試料調製が困難であると予想された。10a 当り投下薬量的には、水溶剤の複数回散布の方が多く、しかも均一な処理が可能のため圃場試験は水溶剤で実施するのが妥当であると思われた。そこで、念のため、モデル的に粒剤の局所施用を実施し、水溶剤処理と減衰の傾向を比較した。その結果、水溶剤処理と比較し、特に粒剤処理での減衰が遅くなる傾向は認められなかった。よって、総投下薬量が多く、均一な処理が可能なお水溶剤を用いての圃場残留本試験を行うことにした。

1) 分析法の原理と操作概要

土壌より抽出する。多孔性ケイソウ土カラムで精製し、液体クロマトグラフで定量する。

2) 分析対象化合物

アセタミプリド



3) 残留試験結果

分析機関：日曹分析センター

試料調製及び 採取場所 年度	供試薬剤の 濃度・量・回数	使用 回数	経過 日数	分析値(mg/kg)		
				最高値	回数	平均値
日本曹達(株) 榛原農業研究所 (静岡) (洪積、埴壌土) 平成4年度	水溶剤(20%) 1000倍希釈 (150L/10a) 5回施用	-	-	<0.05	-	<0.05
		5	0	0.16	2	0.15
		5	1	0.37	2	0.34
		5	7	0.10	2	0.10
		5	14	<0.05	2	<0.05
日本曹達(株) 榛原農業研究所 (静岡) (洪積、埴壌土) 平成4年度	粒剤(2%) 6 kg/10a	5	28	<0.05	2	<0.05
		-	-	<0.05	-	<0.05
		1	0	39.3	2	38.6
		1	1	37.7	2	37.4
		1	7	6.76	2	6.73
		1	14	1.59	2	1.44
		1	21	1.34	2	1.27
1	28	0.45	2	0.45		
1	56	0.12	2	0.12, <0.05		
1	91	<0.05	2	<0.05		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

3.2 容器内試験(畑地状態、試験実施温度 24~27°C)

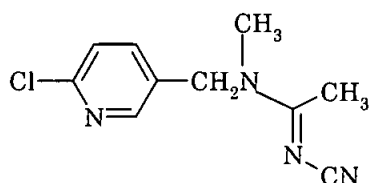
3.2.1 親化合物 (アセタミプリド) の分析

1) 分析法の原理と操作概要

土壌より抽出する。多孔性ケイソウ土カラムおよび C18 ミニカラムで精製し、ガスクロマトグラフ (ECD) で定量する。

2) 分析対象化合物

アセタミプリド



分子式: C₁₀H₁₁ClN₄

分子量: 222.68

3) 残留試験結果

推定半減期: 火山灰軽埴土 (日植防牛久) 1~2 日

洪積埴壤土 (福島農試) 1 日

分析機関: 日曹分析センター

試料調製及び 採取場所 年 度	供 試 薬 剤 の 濃 度 ・ 量 ・ 回 数	使用 回数	経過 日数	分析値(mg/kg)		
				最高値	回数	平均値
福島県農業試験場 (洪積、埴壤土) 平成 5 年度	標準品 (99.9%) 1.2 mg/kg	-	-	<0.01	-	<0.01
		1	0	1.20	2	1.16
		1	1	0.73	2	0.71
		1	3	0.15	2	0.14
		1	7	0.01	2	0.01
		1	14	<0.01	2	<0.01
日植防牛久 (火山灰、軽埴土) 平成 5 年度	標準品 (99.9%) 1.2 mg/kg	-	-	<0.01	-	<0.01
		1	0	1.27	2	1.22
		1	1	0.68	2	0.68
		1	3	0.27	2	0.26
		1	7	0.07	2	0.06
		1	14	<0.01	2	<0.01
1	30	<0.01	2	<0.01		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

3.2.2 親化合物（アセタミプリド）+代謝物の分析

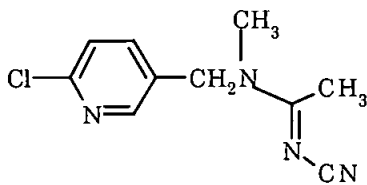
1) 分析法の原理と操作概要

土壌より抽出する。抽出液に対象化合物を
を加え2時間
を行い、分析
を加え、30分間
を行い、分析対象化合物を
する。更に、
する。シリカゲルクロマトグラフィーで精製し、ガスクロマトグラフ
(ECD) で定量する。

残留濃度に換算係数 を乗じてアセタミプリド残留濃度を求める。

2) 分析対象化合物

アセタミプリド



分子式：C₁₀H₁₁ClN₄

分子量：222.68

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

3) 残留試験結果

推定半減期：火山灰軽埴土(日植防牛久) 18日

洪積埴壤土(福島農試) 25日

分析機関：日曹分析センター

試料調製及び 採取場所 年 度	供 試 薬 剤 の 濃 度 ・ 量 ・ 回 数	使用 回 数	経過 日 数	分析値(mg/kg)		
				最高値	回数	平均値
福島県農業試験場 (洪積、埴壤土) 平成5年度	標準品(99.9%) 1.2 mg/kg	-	-	<0.01	-	<0.01
		1	0	1.05	2	1.04
		1	1	0.87	2	0.86
		1	3	0.85	2	0.84
		1	7	0.67	2	0.66
		1	14	0.62	2	0.60
		1	30	0.55	2	0.54
		1	62	0.36	2	0.34
		1	92	0.28	2	0.27
		1	122	0.19	2	0.18
		1	153	0.13	2	0.13
		1	182	0.06	2	0.06
		日植防牛久 (火山灰、軽埴土) 平成5年度	標準品(99.9%) 1.2 mg/kg	-	-	<0.01
1	0			1.01	2	1.00
1	1			0.82	2	0.78
1	3			0.76	2	0.75
1	7			0.72	2	0.69
1	14			0.46	2	0.46
1	30			0.43	2	0.42
1	62			0.35	2	0.34
1	92			0.23	2	0.22
1	122			0.12	2	0.12
1	153			0.06	2	0.06
1	182			0.04	2	0.04

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

3.3 圃場試験（畑地）

3.3.1 親化合物（アセタミプリド）の分析

1) 分析法の原理と操作概要

(3.2.1 項参照)

2) 分析対象化合物

アセタミプリド (3.2.1 項参照)

3) 残留試験結果

推定半減期：火山灰軽埴土（日植防牛久） 1日以内

沖積埴壤土（日植防高知） 1日以内

分析機関：日曹分析センター

試料調製及び 採取場所 年 度	供 試 薬 剤 の 濃 度 ・ 量 ・ 回 数	使用 回数	経過 日数	分析値(mg/kg)		
				最高値	回数	平均値
日植防牛久 (火山灰、軽埴土) 平成5年度	水溶剤 (20%) 1000 倍希釈 (100~200L/10a) 5 回施用	-	-	<0.01	-	<0.01
		5	0	0.53	2	0.52
		5	1	0.15	2	0.15
		5	7	0.14	2	0.14
		5	14	<0.01	2	<0.01
5	28	<0.01	2	<0.01		
日植防高知 (沖積、埴壤土) 平成5年度	水溶剤 (20%) 1000 倍希釈 (150L/10a) 5 回施用	-	-	<0.01	-	<0.01
		5	0	0.35	2	0.35
		5	1	0.16	2	0.15
		5	7	0.05	2	0.05
		5	14	<0.01	2	<0.01
5	28	<0.01	2	<0.01		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

3.3.2 親化合物（アセタミプリド）+代謝物の分析

1) 分析法の原理と操作概要

(3.2.2 項参照)

2) 分析対象化合物

アセタミプリド、

(3.2.2 項参照)

3) 残留試験結果

推定半減期：火山灰軽埴土（日植防牛久） 14 日

沖積埴壤土（日植防高知） 35 日

分析機関：日曹分析センター

試料調製及び 採取場所 年 度	供 試 薬 剤 の 濃 度 ・ 量 ・ 回 数	使用 回 数	経過 日 数	分析値(mg/kg)		
				最高値	回数	平均値
日植防牛久 (火山灰、軽埴土) 平成 5 年度	水溶剤 (20%) 1000 倍希釈 (100~200L/10a) 5 回施用	-	-	<0.01	-	<0.01
		5	0	1.09	2	1.07
		5	1	0.99	2	0.92
		5	7	0.70	2	0.68
		5	14	0.53	2	0.49
		5	28	0.46	2	0.46
		5	56	0.35	2	0.33
		5	91	0.18	2	0.17
		5	120	0.07	2	0.07
5	150	0.05	2	0.04		
日植防高知 (沖積、埴壤土) 平成 5 年度	水溶剤 (20%) 1000 倍希釈 (150L/10a) 5 回施用	-	-	<0.01	-	<0.01
		5	0	0.74	2	0.72
		5	1	0.65	2	0.64
		5	7	0.57	2	0.55
		5	14	0.51	2	0.50
		5	28	0.38	2	0.38
		5	56	0.33	2	0.32
		5	91	0.28	2	0.27
		5	120	0.16	2	0.16
5	150	0.12	2	0.10		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

6. 後作物残留試験

試験未実施

根拠条文：13 生産第 3986 号 記 4 (8) ②

具体的理由：有効成分の好氣的条件下における土壌半減期が 100 日を超えないため、
不要と判断される。

7. 水質汚濁性試験

試験未実施

根拠条文：12 農産第 8147 号 記 4 別表 2 「環境中予測濃度算定に関する試験成績」①

具体的理由：水田において使用されない場合に該当する。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

(有用-水産)

VI. 有用動植物等に及ぼす影響

アセタミプリド

1. 水産動植物に対する影響

資料 No.	試験の種類 被験物質 (純度)	供試 生物	1群当り の 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC ₅₀ 又はEC ₅₀ 値(mg/L) 〔有効成分換算値〕				試験機関 (報告年)	記載頁
						24h	48h	72h	96h		
有1 GLP	魚類急性 毒性試験 原体	コイ	10	止水式	24.5 ～ 25.0	> 100	> 100	> 100	> 100	日本曹達㈱ 安全性 研究所 ¹⁾ (1994)	有用-3
有2 GLP	シソコ類急性 遊泳阻害試験 原体	材シソコ	20	止水式	19.6 ～ 19.8	> 98.3	49.8	—	—	日本曹達㈱ 小田原 研究所 (1997)	有用-4
有3 GLP	藻類生長 阻害試験 原体	緑藻 ²⁾	初期濃度 1×10 ⁴ cells/ml	振盪培 養	23.7 ～ 24.1	ErC ₅₀ (0-72h) : > 98.3 * EbC ₅₀ (0-72h) : > 98.3 * NOECb (0-72h) : 98.3 *				Rhone- Poulenc ³⁾ (1996)	有用-5
有4 GLP	魚類急性 毒性試験 18%SL 液剤	コイ	10	止水式	21.7 ～ 22.5	794	712	712	649	食品農医薬 品安全性 評価センター (2004)	有用-6
有5 GLP	シソコ類急性 遊泳阻害試験 18%SL 液剤	材シソコ	20	止水式	19.7 ～ 20.3	>1000	>1000	—	—	食品農医薬 品安全性 評価センター (2004)	有用-7
有6 GLP	藻類生長 阻害試験 18%SL 液剤	緑藻 ⁴⁾	初期濃度 1.1×10 ⁴ cells/ml	振盪培 養	23.0 ～ 23.2	ErC ₅₀ (0-72h) : > 1000 EbC ₅₀ (0-72h) : > 1000 NOECb (0-72h) : >1000				食品農医薬 品安全性 評価センター (2004)	有用-8
有7 GLP	魚類急性 毒性試験 20%水溶剤	コイ	10	止水式	23.4 ～ 24.0	> 100	> 100	> 100	> 100	日本曹達㈱ 小田原 研究所 (1998)	有用-9
有8 GLP	シソコ類急性 遊泳阻害試験 20%水溶剤	セシ シソコ	20	止水式	24.0 ～ 24.5	> 100	> 100	—	—	日本曹達㈱ 安全性 研究所 ¹⁾ (1994)	有用-10

* : 実測濃度に基づくLC₅₀/EC₅₀

1) 現日本曹達㈱ 小田原研究所

2) *Scenedesmus subspicatus*

3) Rhone-Poulenc Agrochimie.

4) *Pseudokirchneriella subcapitata*

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

〈 有用－水産 〉

No.	試験の種類 被験物質 (純度)	供試 生物	1 群当り の 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC ₅₀ 又はEC ₅₀ 値(mg/L) <有効成分換算値>	試験機関 (報告年)	記載 頁
有 9 GLP	藻類生長 阻害試験 20%水溶剤	緑藻 ²⁾	初期濃度 約 2 × 10 ⁴ cells/ml	振盪培養	21.7 ～ 24.3	ErC ₅₀ (0-72h) : > 97.8 * EbC ₅₀ (0-72h) : > 97.8 *	Rhone- Poulenc ³⁾ (1997)	有用-11

* : 実測濃度に基づくLC₅₀/EC₅₀

2) *Scenedesmus subspicatus*

3) Rhone-Poulenc Agrochimie.

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

(有用原体-水産)

1-1. 原体

水産動植物への影響に関する試験

1) 魚類急性毒性試験

(資料 No. 有 1)

コイを用いた急性毒性試験

試験機関：日本曹達(株) 安全性研究所
〔GLP 対応〕

報告書作成年：1994 年 (改訂第 1 版)

被験物質：NI-25 (アセタミプリド原体)

供試生物：コイ (*Cyprinus carpio*)

1 群各 10 匹, 体長 ; 4.2~4.8 cm (平均 4.5 cm),

体重 ; 1.8~2.6 g (平均 2.2 g)

方法 : 各濃度あたり 10 匹のコイを用い、96 時間の止水式暴露を行った。被験物質を希釈水 (脱塩素した水道水) で溶解して 1L とし、これを順次希釈して各濃度区の試験溶液を調製した。無処置対照群は希釈水のみとした。暴露 3、6、24、48、72、96 時間後に各群の死亡率および中毒症状を観察した。水温は各観察時間 (3、6、24 および 48 時間) に測定した。希釈水の水質は、pH 7.8、全硬度約 60 mg/L、塩素量 0.1 mg/L 以下、および溶存酸素量 7.4 mg/L であった。

試験水温 : 24.5 ~ 25.0°C

結果 :

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0, 10, 30, 100	
	実測濃度	測定せず ¹⁾	
LC ₅₀ (mg/L) * <有効成分換算値> [95%信頼限界]	24 h	> 100 [-]**	
	48 h		
	72 h		
	96 h		

* : 設定濃度に基づく ** : 最高濃度においても死亡がみられなかったため算出できず。

1) : 申請者註

暴露期間中、いずれの群においても死亡および中毒症状はみられなかった。希釈水の水質は、pH 7.8、全硬度約 60 mg/L、塩素量 0.1 mg/L 以下、および溶存酸素量 7.4 mg/L であった。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

〈 有用原体－水産 〉

2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料 No. 有 2)

試験機関：日本曹達(株) 小田原研究所

[GLP 対応]

報告書作成年：1997 年

被 験 物 質：NI-25 (アセタミプリド原体)

供 試 生 物：オオミジンコ (*Daphnia magna*) 1 群各 20 頭 (生後 24 時間以内の個体)

方 法：各濃度あたり、20 頭のミジンコを用い、48 時間の止水式暴露を行った。被験物質を希釈水 (調製水：) と混合して各濃度の試験水を調製した。被験物質の調製に溶媒は使用しなかった。水温は各観察時間 (0、3、6、24 および 48 時間) に測定し、さらに一つの容器で暴露期間中連続的にモニターした。暴露開始直前および 48 時間後に、溶存酸素量、pH、全硬度、アルカリ度および電気伝導度を測定した。被験物質濃度の測定は、全ての濃度において暴露開始時と終了時に実施した。暴露開始 3、6、24 および 48 時間後に死亡、毒性兆候について観察した。

試 験 水 温：19.6～19.8℃

結 果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0, 12.5, 25, 50, 100, 200					
	実測濃度(平均)	0, 13.1, 25.2, 50.1, 98.1, 197.8					
EC ₅₀ (mg/L) * [95%信頼限界]	24 h	> 98.3 [-]**					
	48 h	49.8 [40.0～62.1]					
NOEC (mg/L) *	12.5						

*：設定濃度に基づく

**：最高濃度においても 50%を超える阻害がみられなかったため算出できず。

暴露 48 時間後では、25 mg/L 以上の群において遊泳阻害が認められ、100 および 200 mg/L において死亡がみられた。暴露期間中、12.5 mg/L 群および対照群において、形態的・行動的異常は認められなかった。

試験液中の被験物質濃度の測定結果は、試験開始時で 13.1、25.7、50.4、100.8、202.3 mg/L (設定濃度の 100.8～104.7%)、試験終了時が 13.1、24.6、49.7、95.3、193.3 mg/L (設定濃度の 95.3～104.6%) であったため、EC₅₀値は設定濃度を用いて算出した。

48 時間の暴露期間中、いずれの容器においても沈殿物あるいは不溶解物は見られなかった。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

〈 有用原体－水産 〉

3) 藻類生長阻害試験

(資料 No. 有 3)

試験機関：Rhone-Poulenc Agrochimie. (仏国)

[GLP 対応]

報告書作成年：1996 年

被験物質：アセタミプリド原体

供試生物：単細胞緑藻 (*Scenedesmus subspicatus* (Chodat), 86.81 SAG)

初期生物量 $1.8 \sim 2.2 \times 10^4$ cells/mL

方法：無菌振盪 (97 rpm) 培養により 72 時間の暴露を行った。被験物質を希釈水に溶解し、スターラーにかけて保存溶液を調製した。これを希釈水で希釈し各濃度区の試験溶液を調製 (n=3) した。対照区は希釈水のみ (n=6) を調製した。

対照群、処置群ともに暴露開始時・終了時に pH、水温および被験物質濃度を測定した。暴露開始時、24、48 および 72 時間後に細胞濃度を測定し、生育阻害率を算出した。試験は、pH 7.5~8.6、照度 6000~10000 lux の連続照明で行われた。

試験水温：23.7 ~ 24.1°C

結果：

試験濃度 (mg/L)	設定濃度	0, 1.9, 4.3, 9.4, 20.7, 45.5, 100
	実測濃度 (平均)	0, 1.9, 4.3, 9.2, 20.6, 44.7, 98.3
ErC ₅₀ (mg/L) * [95%信頼限界]		(0~72 h) > 98.3 [-]**
EbC ₅₀ (mg/L)* [95%信頼限界]		(0~72 h) > 98.3 [-]**
NOECr (mg/L) *		(0~72 h) 98.3 [-]**
NOECb (mg/L) *		(0~72 h) 98.3 [-]**

* : 平均実測濃度に基づく

** : 最高濃度においても 50%を超える阻害がみられなかったため算出できず。

試験液中の被験物質濃度の測定結果は、試験開始時は 1.9、4.2、8.9、20.4、44.5、96.9 mg/L (設定濃度の 95~100%)、試験終了時は 1.9、4.3、9.4、20.8、44.9、99.7 mg/L (設定濃度の 95~100%) であった。72 時間の暴露において、有意な生長阻害はどの試験濃度区でもみられなかった。また、72 時間暴露後の暴露群と対照群の細胞密度に有意差は認められなかった。